



元総社蒼海遺跡群 (60)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 4 . 3

前橋市教育委員会











元総社蒼海遺跡群 (60)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 4 . 3

前橋市教育委員会







元総社普海道跡群 (60) A区全景 (南から)



元総社普海道跡群 (60) B区全景 (南から)





元総社若海道跡群 (60) C区全景 (北から)



遺構外出土 灰軸転用硯 (朱墨)



X線

A区H-11号住居跡出土 銅



元総社若海道跡群 (60) 出土の緑軸陶器



はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築されました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（60）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府の時期と一致する古代溝やほぼ10m四方の大型住居跡を検出しました。この一筋の光がやがて拡大され上野国府の研究が多いに進展していくものと確信しております。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員みなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 26 年 3 月

前橋市教育委員会
教育長 佐藤 博之

例 言

- 1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（60）埋蔵文化財発掘報告書である。
- 2 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（60）
調査場所	前橋市元総社町1309-1ほか
遺跡コード	25 A 159
発掘・整理担当者	前田和昭（技研コンサル株式会社）
調査員	佐野良平 中村岳彦
調査補助員	岡野 茂
発掘調査期間	平成25年12月3日～平成26年2月13日
整理・報告書作成期間	平成26年2月14日～平成26年3月26日
- 3 本書の原稿執筆はⅠを福田貫之（前橋市教育委員会）、Ⅴ溝・Ⅵ戸・Ⅶ土坑・Ⅷピット、Ⅷ2については岡野、他を前田が担当した。
- 4 発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子 新井 寛 飯島冬子 石川承子 石田てい子 伊丹茂一 稲数美枝子 宇貫美代子 榎原義久
遠藤好則 大塚とし子 岡 眞 小笠原邦樹 小笠原文子 加藤智恵子 上沢公一 鴨田榮作 川野京子
木暮朱実 木暮孝一 木暮知二 小林克宏 齋藤政次 佐藤和彦 佐藤文江 塩野 浩 篠崎政子
杉田友香 竹澤賢司 田部井美砂子 土屋和美 中野光雄 西潟 登 萩原 誠 福島祐子 松村春樹
丸山文江 水野さかみ 武藤 光 矢内朝夫 吉井正宏 和田 進
- 5 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 6 鉄製鐔のX線撮影は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団保存処理室の岡 邦一氏に依頼した。
- 7 鉄製鐔については、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの津野 仁氏に実現して頂き、御教示を受けた。
- 8 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

大西雅広 神谷佳明 木津博明 宮崎重雄 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター 山下工業株式会社

凡 例

- 1 挿図中に使用した北は座標北である。
- 2 挿図に国土地理院発行1/200,000「宇都宮」〔長野〕、1/25,000「前橋」、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、竪穴住居跡：H、溝：W、井戸：I、土坑：D、ピット：Pである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構	竪穴住居跡・竪穴状遺構・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60	全体図・・・1/400	
遺物	土器・石製品・・・1/3、1/4	鉄製品・・・1/2	古銭・・・1/1
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構	焼土範囲：	灰範囲：	遺物	須恵器（還元焰）：	施釉：
----	-------	------	----	-----------	-----



7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B (浅間 B 軽石：1108)、Hr-FP (榛名ニッ岳伊香保テフラ：6 世紀中葉)、

Hr-FA (榛名ニッ岳渋川テフラ：6 世紀初頭)、As-C (浅間 C 軽石：3 世紀後葉～4 世紀前半)

目 次

巻頭図版 1

巻頭図版 2

はじめに

例言・凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の方針と経過	
1	調査範囲と基本方針	7
2	調査経過	7
IV	基本層序	7
V	遺構と遺物	
1	A 区	
(1)	竪穴住居跡	9
(2)	溝跡	16
(3)	井戸跡、土坑、ピット	16
2	B 区	
(1)	竪穴住居跡	45
(2)	溝跡	46
(2)	土坑	47
3	C 区	
(1)	竪穴住居跡	58
(2)	溝跡	58
VI	発掘調査の成果と課題	64
1	集落の変遷	64
2	政治関連遺構について	65
3	鉄製器について	65

挿図目次

Fig.1	遺跡の位置	1	Fig.11	A 区 H-12・13・14・20 号住居跡	22
Fig.2	周辺遺跡図	3	Fig.12	A 区 H-15・17・34 号住居跡	23
Fig.3	元能社会海遺跡群位置図とグリッド設定図	6	Fig.13	A 区 H-16・18・22 号住居跡	24
Fig.4	基本層序	7	Fig.14	A 区 H-18・19 号住居跡	25
Fig.5	元能社会海遺跡群 (仮) 全体図	8	Fig.15	A 区 H-23・25・29 号住居跡	26
Fig.6	A 区 H-1・2 号住居跡	17	Fig.16	A 区 H-26・28 号住居跡	27
Fig.7	A 区 H-3・4・5・6 号住居跡	18	Fig.17	A 区 H-31 号住居跡	28
Fig.8	A 区 H-7・27 号住居跡	19	Fig.18	A 区 H-30・32・33 号住居跡	29
Fig.9	A 区 H-8・9・10・24 号住居跡	20	Fig.19	A 区溝、井戸、土坑 (1)	30
Fig.10	A 区 H-11・12・20・21 号住居跡	21	Fig.20	A 区土坑 (2)	31



Fig.21	A区土坑(3)	32	Fig.34	B区H-4・5・6号住居跡	52
Fig.22	A区土坑(4)、ピット	33	Fig.35	B区W-1・2・3・4号溝	53
Fig.23	A区H-1号住居跡出土遺物	34	Fig.36	B区H-1・2号住居跡出土遺物	54
Fig.24	A区H-2・5・9号住居跡出土遺物	35	Fig.37	B区H-2・3・4・5号住居跡出土遺物	55
Fig.25	A区H-10～18号住居跡出土遺物	36	Fig.38	B区H-6号住居跡、W-4号溝、遺構外出土遺物	56
Fig.26	A区H-19～21・23～25号住居跡出土遺物	37	Fig.39	C区H-1・2・3・4号住居跡(1)	59
Fig.27	A区H-26～29号住居跡出土遺物	38	Fig.40	C区H-1・2・3・4号住居跡(2)、W-1号溝	60
Fig.28	A区H-30～32号住居跡、土坑、井戸出土遺物	39	Fig.41	C区H-1号住居跡出土遺物	61
Fig.29	A区遺構外出土遺物	40	Fig.42	C区H-1・2・3・4号住居跡、W-1号溝、遺構外出土遺物	62
Fig.30	B区H-1号住居跡(1)	48	Fig.43	集落の衰退	64
Fig.31	B区H-1号住居跡(2)	49	Fig.44	元能登海浜地区の鍛冶関連遺構	65
Fig.32	B区H-1号住居跡(3)、D-1号土坑	50	Fig.45	鉄製十字鐙の分布	66
Fig.33	B区H-2・3号住居跡	51			

表目次

Tab.1	周辺道路一覧	4
Tab.2	A区井戸・土坑・ピット計測表	16
Tab.3	A区出土遺物観察表	41
Tab.4	B区土坑計測表	47
Tab.5	B区出土遺物観察表	56
Tab.6	C区出土遺物観察表	63

写真図版目次

PL.1	A区全景(南から) A区全景(南東から) A区北半全景(西から) A区南半全景(北西から) A区北半全景(南東から) A区H-1全景(南から) A区H-2全景(西から) A区H-2カマド全景(西から)
PL.2	A区H-3全景(東から) A区H-3貯蔵穴全景(東から) A区H-4全景(南から) A区H-5全景(西から) A区H-6全景(東から) A区H-6 As・B軽石堆積状況(南から) A区H-6 As・B軽石堆積状況(南東から) A区H-6 火床面検出状況(東から)
PL.3	A区H-7全景(南から) A区H-7カマド全景(南から) A区H-8全景(南東から) A区H-8カマド断面(南から) A区H-9全景(西から) A区H-9カマド遺物出土状況(西から) A区H-9カマド全景(西から) A区H-10全景(西から)
PL.4	A区H-10カマド全景(西から) A区H-11・12・20全景(西から) A区H-11・12全景(東から) A区H-12カマド全景(西から) A区H-13全景(北西から) A区H-13カマド全景(北西から) A区H-14全景(西から) A区H-15全景(東から)
PL.5	A区H-15カマド全景(東から) A区H-16全景(東から) A区H-16カマド検出状況(東から) A区H-16カマド全景(東から) A区H-17全景(西から) A区H-18全景(西から) A区H-18カマド遺物出土状況(西から) A区H-18カマド全景(西から)
PL.6	A区H-19全景(西から) A区H-19カマド全景(西から) A区H-20全景(西から) A区H-20カマド全景(西から) A区H-21全景(西から) A区H-22全景(東から) A区H-23全景(北から) A区H-23遺物出土状況(北西から)
PL.7	A区H-25全景(西から) A区H-25カマド全景(西から) A区H-25・26・29・32全景(南から) A区H-26カマド全景(西から) A区H-27全景(南西から) A区H-27カマド全景(南西から) A区H-28カマド全景(西から) A区H-29カマド全景(西から)
PL.8	A区H-31全景(西から) A区H-31カマド全景(西から) A区H-31遺物出土状況(北西から) A区H-32カマド全景(北から) A区H-33カマド全景(南から) A区W-1全景(西から) A区I-1全景(西から) A区I-2全景(南から)
PL.9	A区I-3全景(東から) A区I-2・3・10、P-2・3・10全景(東から) A区I-17全景(西から) A区I-18全景(南から)
PL.10	B区全景(南から) B区北半全景(南西から) B区全景(西から) B区H-1全景(西から) B区H-1カマド全景(西から) B区H-1掘り方断面検出状況(南西から) B区H-1カマド掘り方全景(西から) B区H-2全景(西から)
PL.11	B区H-2カマド全景(西から) B区H-2遺物出土状況(北西から) B区H-3全景(西から) B区H-4全景(西から) B区H-5・6全景(西から) B区H-5カマド全景(西から) B区H-5遺物出土状況(北から) B区W-1確認状況(西から)
PL.12	B区W-1断面(西から) B区W-2全景(西から) B区W-4全景(東から) C区全景(東から) C区全景(北から) C区南壁断面(北東から) C区西壁断面(東から) C区H-1全景(西から)
PL.13	C区H-1遺物出土状況(北から) C区H-2全景(北から) C区H-3全景(北から) C区H-4全景(西から) C区H-4カマド全景(西から) C区W-1全景(東から) C区W-1東壁断面(西から) C区W-1東西断面(南から)





I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、15年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成25年9月12日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成25年11月22日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で発掘調査・整理業務委託契約を締結し調査を開始した。なお、C区北側については、攪乱が及んでいるため、調査対象から外した。

遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（60）」（遺跡コード：25A-159）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（60）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig.1 遺跡の位置



II 遺跡の位置と環境

遺跡の位置 (Fig. 1) 本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高3～5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として畑地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

歴史的環境 (Fig. 2, Tab. 1) 本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連続と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15]・産業道路西 [16]・総社関泉明神北Ⅲ遺跡 [61]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]・元総社小見Ⅲ遺跡 [59]・元総社若海遺跡群 [24]などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡 [18]・[19]、上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]、正観寺遺跡 [21]などがあるがその分布は散漫である。このうち日高遺跡では浅間C経石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

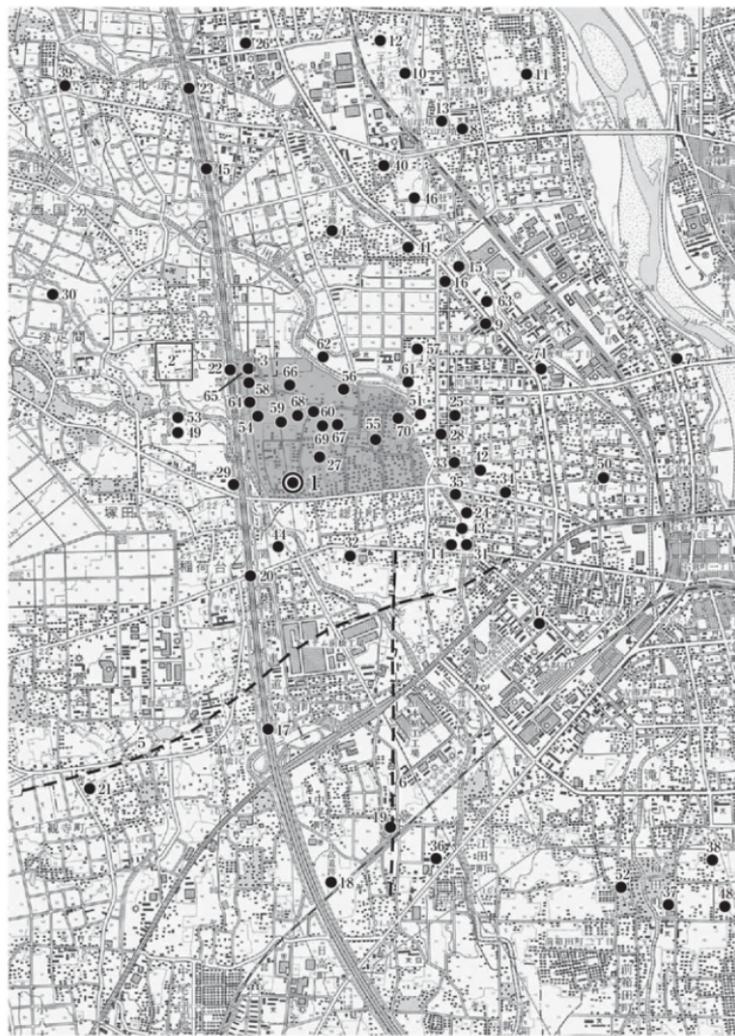
古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳 [7]、二子山古墳 [12]、愛宕山古墳 [10]、宝塔山古墳 [13]、蛇穴山古墳 [8]などの首長墓が多数築造された。この時期の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺 [2]、国分尼寺 [3]、山王廃寺 [4]の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡 [14]、元総社寺田遺跡 [43]、元総社宅地遺跡 [55]などがある。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社寺田遺跡では「厨厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形が出土している。また元総社明神遺跡 [24]では南北方向の溝跡、関泉橋遺跡 [25]や元総社若海遺跡群 (7) (9) (10)では東西方向の溝跡が確認され、国府域の東北外郭線が想定された。周辺遺跡からは円面硯や緑釉陶器、笮方(腰帯具)なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀などが確認されている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構などが確認されている。関連遺跡として中尾遺跡 [17]で神社遺構、鳥羽遺跡 [20]で工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。

山王廃寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49～56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」梵書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録報」にみられる「放光寺」であることが有視されるようになった。平成9～11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成18・19年度調査では北・東・西面、平成20年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成21年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この



■ = 元総社若海道跡群



Fig 2 周辺道跡図





Tab.1 周边道路一览表

番号	道路名	開通年度	種別・主要構造物、地上・地下物
1	元結川右岸道路(旧道)	2013	本線路
2	土野川中川(旧道(新))	1980-86	奈良 奈良県、奈良県
3	土野川左岸道路	1999	奈良 高田橋、奈良橋、東山橋
4	高土橋道路	1974	奈良 橋心橋、新倉石、奈良橋、津島橋、新田橋(石)
5	東山橋(新築)	-	-
6	日蓮橋(新築)	-	-
7	土山古渡	1973	奈良 高土橋(旧道)(6.6m)
8	新田山古渡	1973	奈良 高土橋(7.2m)
9	新田山古渡	1988	奈良 土野川(6.5m)
10	東山古渡	1996	奈良 土野川(7.2m)
11	津島山古渡	本線路	奈良 高土橋(旧道)(5.6m)
12	新田山古渡	本線路	奈良 高土橋(旧道)(6.6m)
13	高土橋古渡	本線路	奈良 高土橋(7.2m)
14	元結川中川(新築道路)	1962	奈良 新土野川橋、新土野川、新田橋
15	高土橋(新築)	1966	奈良 土野川
16	高土橋(新築)	-	奈良 土野川
17	中野橋(事業法)	1976	奈良 奈良、奈良
18	日蓮橋(事業法)	1977	奈良 本線路、高土橋、新田橋、奈良橋、本線路、奈良、奈良
19	日蓮橋(奈良市)	1979	奈良 本線路
20	高土橋(奈良市)	1979-82	奈良 高土橋、新田橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
21	高土橋(奈良市)	1979-81	奈良 高土橋、高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
22	土野川中川(奈良市)中国産紙(事業法)	1960-83	奈良 土野川、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
23	高土橋(奈良市)	1962	奈良 土野川、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
24	元結川(奈良市)一宮(奈良市)	1962-96	奈良 高土橋、本線路、新田橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
25	高土橋(奈良市)	1963	奈良 奈良、奈良
26	高土橋(奈良市)	1963, 1968	奈良 奈良、奈良、奈良、奈良
27	高土橋(奈良市)	1964	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良
28	高土橋(奈良市)	1965	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良
29	高土橋(奈良市)	1965	奈良 高土橋
30	高土橋(奈良市)一宮(奈良市)	1965-67	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
31	高土橋(奈良市)	1966	奈良 奈良
32	高土橋(奈良市)	1966, 68	奈良 奈良、奈良
33	高土橋(奈良市)	1966, 95	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
34	高土橋(奈良市)	1967	奈良 奈良、奈良、奈良
35	高土橋(奈良市)	1967	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
36	高土橋(奈良市)	1967	奈良 奈良
37	高土橋(奈良市)	1967	奈良 高土橋、奈良、奈良
38	高土橋(奈良市)	1967	奈良 奈良
39	高土橋(奈良市)	1968	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良
40	高土橋(奈良市)	1968	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
41	高土橋(奈良市)	1968	奈良 奈良、奈良、奈良
42	高土橋(奈良市)	1968	奈良 高土橋
43	高土橋(奈良市)一宮(奈良市)	1968-70	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
39	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋
44	高土橋(奈良市)	1969, 95	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
45	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
46	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
47	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
48	高土橋(奈良市)	1969	奈良 奈良
49	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
50	高土橋(奈良市)	1969	奈良 奈良
51	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
52	高土橋(奈良市)	1969	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
53	高土橋(奈良市)	2000	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
54	高土橋(奈良市)	2000	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
55	高土橋(奈良市)	2000	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
56	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
57	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
58	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
59	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
60	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
61	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
62	高土橋(奈良市)	2003-04	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
63	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
64	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
65	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
66	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
67	高土橋(奈良市)	2003	奈良 高土橋、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
68	高土橋(奈良市)	2004	奈良 奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良
69	高土橋(奈良市)	2004	奈良 奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良、奈良

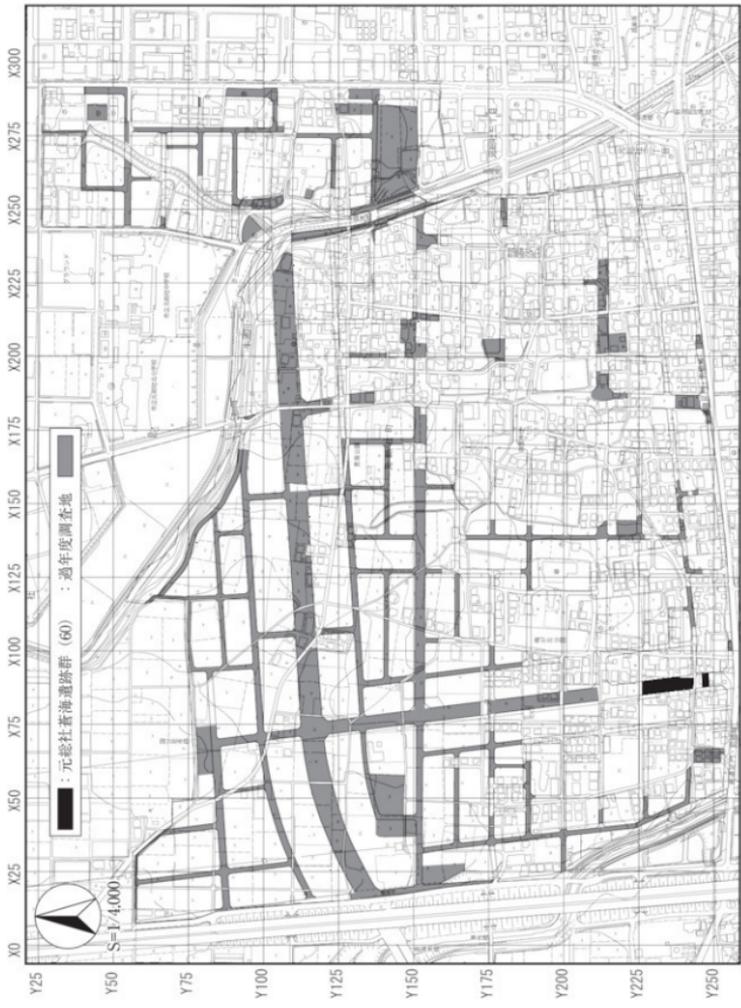


Fig 3 元能社若海道路群位置図とグリッド設定図



Ⅲ 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区南整理事業の道路予定地であり、調査面積は1,190 m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系） $X = 44000.000$ 、 $Y = -72200.000$ を基点とする4 mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
(60)	X 86, Y 227	X = 43092.000 m, Y = -71856.000 m
		X = 43446.916 m, Y = -72147.760 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

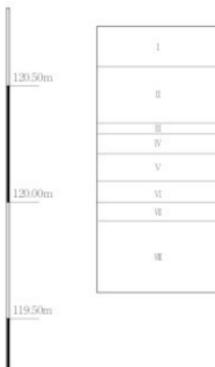
遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソフォトに変換して編集を行なった。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景撮影については高所作業車での撮影を実施した。

2 調査経過

発掘調査は表土掘削を平成25年12月3日から12月10日まで実施した。表土掘削以降、順次調査を進め、12月20日にB区、平成26年1月17日にC区、2月5日にA区的全景撮影を実施した。その後、2月13日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。2月14日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

Ⅳ 基本層序

A区からC区までの南北に位置する調査範囲では、北西から南東へと緩やかに傾斜した地形となっている。I～Ⅲ層までは人為的に地形が改変され、IV～Ⅷ層のAs-B軽石混土層はほぼ全域に堆積しており、A区ではAs-B軽石一次堆積層に覆われた遺構も検出している。現況地形から遺構確認面まではA区北側が最も深く、B区南端が浅くなっている。C区は調査区全域にわたり激しい攪乱を受けていることから、As-B軽石を含む土層は確認されていない。基本層序においては、各調査地点の堆積状況に大きな差異が認められないため、比較的上位の土層が残存しているA区にて観察を行なった。



- 基本層序
- I 第四土層（10V12-2）締まり中砂、粘性中、造粒土層。
 - II 第四土層（10V14-1）締まり中、粘性中～強い、造粒土層。
 - III 第四土層（10V14-7）締まり中、粘性中、砂含有量最大の攪乱土層。
 - IV 第四土層（10V12-3）締まり中、粘性中～強い、造粒土層中多量にAs-B軽石混土層を含む。
 - V 第四土層（10V12-1）締まり中、粘性中、As-B軽石混土層、軽石混土層中多量を含む。
 - VI 第四土層（10V12-5）締まり中～中、粘性中～中弱、As-B軽石混土層。
 - VII 第四土層（10V12-2）締まり中～中、粘性中～中弱、As-B軽石混土層を含む。（遺構確認層）
 - VIII 第四土層（10V12-6）締まり中～強い、粘性中、粘性土層。

Fig.4 基本層序

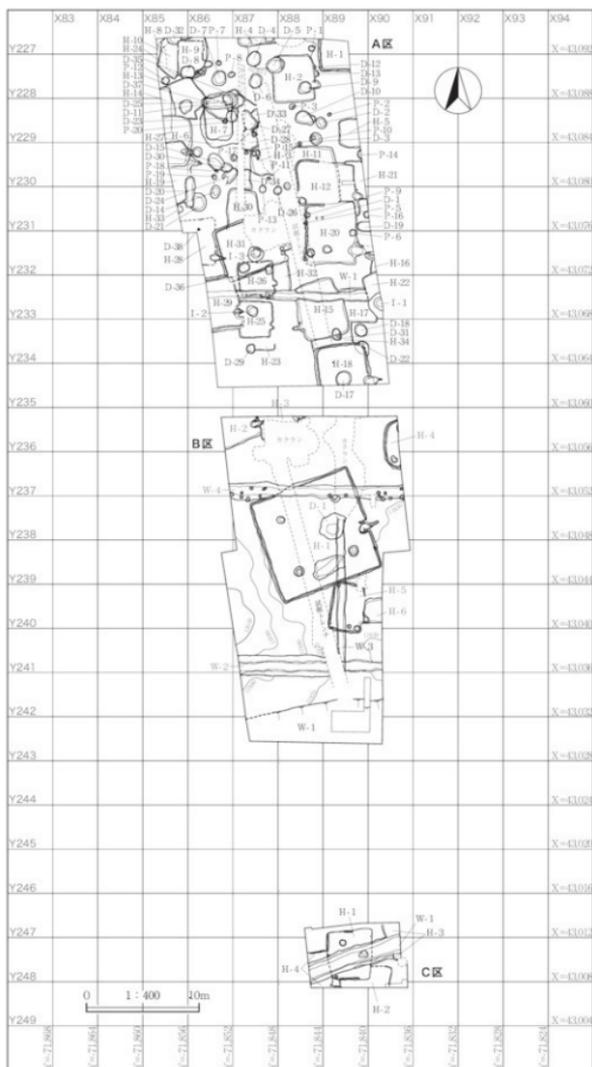


Fig. 5 全体図





V 遺構と遺物

1 A区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 6・23, PL. 1・14)

位置 X 88・89, Y 226・227 主軸方向 N-88°-E 規模 東西軸(2.87)m、南北軸(2.96)m、壁現高0.29m。調査区北東端において住居跡南西隅部のみ検出であり、大半は調査区外となる。面積(6.37)㎡ 床面比較的平坦で締まりは弱い。重複無し。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色土で構築されている。出土遺物 覆土中より土師器環1点、床面直上より土師器甕2点、砥石1点、こも礫石13点を図示。時期 出土遺物の傾向から7世紀後半と想定される。

H-2号住居跡 (Fig. 6・24, PL. 1・14)

位置 X 87・88, Y 227・228 主軸方向 N-89°-E 規模 東西軸3.84m、南北軸4.33m、壁現高0.27m。面積13.82㎡ 床面 凹凸があり、締まりがやや強い。重複 D-5・9・12・13と重複し、新旧関係はD-12・13→本遺構→D-5・9である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.78m、燃焼部幅0.73m、袖の残存長は右側(南)が0.22m、左側(北)が0.23mを測り、両袖は砂岩製の袖石を芯材として構築されている。煙道は壁外に0.45m突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口から南西方向に焼土粒を含む灰層が床面直上に堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 カマド付近を中心として、須恵器高台付杯が6点(1・3~7)、須恵器杯が1点(2)、須恵器甕が1点(8)、土師器甕が1点(9)が出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-3号住居跡 (Fig. 7, PL. 2)

位置 X 87, Y 230 主軸方向 N-84°-E 規模 東西軸(1.90)m、南北軸(2.84)m、壁現高0.26m。住居東半は掘乱により削平されている。面積(2.04)㎡ 床面 凹凸があり、締まりがやや弱い。重複無し。カマド 検出されず。貯蔵穴 北西側に長軸0.71m、短軸0.64m、深さ0.47mを測る楕円形の貯蔵穴が検出された。柱穴 長軸0.25m、短軸0.21m、深さ0.17mを測るビット状の掘り込みが1基検出しているが、柱穴かは不明。掘り方 AsC 軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 破片を含め、出土遺物は無い。時期 遺物出土および重複遺構がないために、本遺構の帰属時期は不明である。

H-4号住居跡 (Fig. 7, PL. 2)

位置 X 87・88, Y 226・227 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(3.42)m、南北軸(0.38)m、壁現高0.72m。調査区北端において南端部のみ検出であり、北半は調査区外となる。面積(1.56)㎡ 床面 硬質な地山硬化床。重複無し。カマド 検出されず。貯蔵穴 長軸1.24m、短軸0.81m、深さ0.14m、長軸0.82m、短軸0.45m、深さ0.16mをそれぞれ測る楕円形の浅い掘り込みが住居南側東西隅に1基ずつ検出しているが、貯蔵穴かは不明。柱穴 検出されず。出土遺物 図示し得た遺物はない。時期 本遺構の帰属時期は不明である。

H-5号住居跡 (Fig. 7・24, PL. 2・14)

位置 X 89, Y 228・229 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(1.92)m、南北軸2.68m、壁現高0.47m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。面積(3.71)㎡ 床面 平坦で締まりがやや弱い。重複無し。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 床面直上(2)と覆土中(1)から土師器環が1点ずつ、計2点出土している。時期 出土遺物の傾向から6世紀後半~7世紀初頭と想定される。





H-6号住居跡 (Fig. 7・24, PL. 2・14)

位置 X 85・86, Y 228・229 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(2.61)m、南北軸4.65m、壁現高0.27m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。面積 (8.49)㎡ 床面 若干の凹凸があり、部分的に床面硬化がみられる。重複 H-13・14・19と重複し、新旧関係はH-13→H-14→H-19→本遺構である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 東壁面下位より土師質環2点(1・2)、床面直上より土師質高台付環(4)、平瓦(5)、覆土中より土師質環(3)が出土している。本遺構から出土している土師質環はいずれも、所謂「かわかけ状の環」である。備考 本遺構は、床面から10～15cmの間層を挟んで、天仁元年(1108)に浅間山から降下したAs-B軽石一次堆積層を覆土としている。As-B軽石は赤灰色火山灰層と軽石層からなり、As-Kk層は確認されていない。住居中央には南北幅1.09m、東西幅(0.73)mの範囲で、よく硬化した炉状の火床面が検出している。焼土層上は緻密で軟質な白色灰層が全体を覆っており、内から牛と考えられる大型哺乳動物の小骨片が少量出土している。この白色灰を覆うように黒色灰が堆積し、上位に住居覆土が直接堆積している。時期 覆土堆積物および出土遺物の傾向から11世紀後半と想定される。

H-7号住居跡 (Fig. 8・24, PL. 3・14)

位置 X 86, Y 227・228 主軸方向 N-3°-W 規模 東西軸2.57m、南北軸3.94m、壁現高0.09m。面積 8.30㎡ 床面 平坦で締まりがやや弱い。重複 D-11・23・25・35・37、H-27と重複し、新旧関係はD-37→H-27→D-35→D-23・34→本遺構→D-11である。カマド 北壁寄りに1基検出。確認長0.59m、燃焼部幅0.40m、煙道は壁外に0.08m突出している。天井部は完全に崩落しており、契口から南西方向に灰層が床面直上に堆積している。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 南壁付近床面直上より、土師質環1点(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から11世紀台と想定される。

H-8号住居跡 (Fig. 9・24, PL. 3・14)

位置 X 85, Y 226・227 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(2.32)m、南北軸(0.49)m、壁現高0.28m。調査区北西端部での検出であり、大半は調査区外となる。面積 (0.80)㎡ 床面 平坦で締まりがやや強い。重複 H-24と重複し、新旧関係はH-24→本遺構である。カマド 東壁に1基検出。確認長1.03m、燃焼部幅0.64m、燃焼部幅(0.38)m、煙道は壁外に0.37m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色土により構築されている。出土遺物 カマド覆土中より、土師質高台付環1点(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-9号住居跡 (Fig. 9・24, PL. 3・14)

位置 X 85・86, Y 226・227 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸2.35m、南北軸3.18m、壁現高0.22m。面積 6.40㎡ 床面 平坦で締まりがやや強い。重複 H-10・24、D-8・32と重複し、新旧関係はH-24→H-10→D-8・32→本遺構である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長1.03m、燃焼部幅0.64mを測り、煙道は壁外に0.77m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 カマド崩落土中より灰陶器皿(1)、土師質高台付環(2・3)、床面直上より煤が付着した磨石が出土している。時期 出土遺物の傾向から11世紀前半と想定される。

H-10号住居跡 (Fig. 9・25, PL. 3・4・14)

位置 X 85・86, Y 226・227 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸3.82m、南北軸3.71m、壁現高0.18m。面積 (11.71)㎡ 床面 比較的平坦で、やや締まる。重複 H-9・24、D-8・32と重複し、新旧関係はH-24→本遺構→D-8・32→H-9である。カマド 検出していないが、貯蔵穴の検出状況から判断





すると、東壁南寄りに存在した可能性が高い。貯蔵穴 東壁南寄りに1基検出。長軸0.99 m、短軸0.41 m、深さ0.36 mを測る。カマド崩落土の流れ込みと思われる灰層が堆積し、部分的に被熱箇所がある。柱穴 検出せず。掘り方 AsC 軽石を少量含んだ黒褐色土で構築される。出土遺物 床面直上から須恵器高台付坏(1)、羽釜(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-11号住居跡 (Fig10・25, PL.4・14)

位置 X 88・89, Y 229・230 主軸方向 N-94°-E 規模 東西軸(5.07) m、南北軸(7.59) m、壁現高0.35 m。面積 (19.06) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-12・20と重複し、新旧関係はH-12→本遺構→H-20である。カマド 検出されず。貯蔵穴 南西側から長軸0.75 m、短軸0.67 m、深さ0.27 m、平面楕円形、西側から長軸0.66 m、短軸0.58 m、深さ0.38 m、平面楕円形の計2基が検出されている。柱穴 検出されず。掘り方 AsC 軽石粒を少量含んだ黒褐色土により構築されている。出土遺物 遺物は住居南半に集中して出土した。1・2は土師質坏で所謂「かわかけ状の坏」、3は土師質坏で底部が欠損している。4は土師質坏底部を転用した紡錘車、5は鉄製鐙で、円形の耳と切羽内の間は十字に繋がれており、錆により上部が変形している。破損した耳の内外のみに緑青が付着している。6は刀子で両端が欠損している。7は碗形鍛冶滓である。時期 出土遺物の傾向から11世紀台と想定される。

H-12号住居跡 (Fig10・11・25, PL.4・14)

位置 X 88・89, Y 229・230 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(5.77) m、南北軸5.14 m、壁現高0.26 m。面積 (18.83) m² 床面 カマド前を中心に硬化している。重複 H-11・20・21と重複し、新旧関係はH-21→本遺構→H-11→H-20である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.92 m、燃焼部幅0.89 m、煙道は壁外に0.61 m突出している。天井部は完全に崩落しているが、燃焼部内壁の焼土化や灰層が弱く、焚口外の崩落土に焼土粒と灰が僅かに混入するのみである。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックとAsC 軽石粒を少量含む暗褐色土により構築されている。出土遺物 カマドより須恵器高台付坏(1)、内面黒色処理須恵器坏(2)、羽釜(3)の計3点が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-13号住居跡 (Fig11・25, PL.4・14)

位置 X 85・86, Y 227・228 主軸方向 N-145°-E 規模 東西軸(3.20) m、南北軸3.52 m、壁現高0.14 m。面積 (7.86) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-6・7・10・14, D-8・37と重複し、新旧関係は本遺構→D-37→H-14→H-10→D-8→H-7→H-6である。カマド 南壁中央に1基検出。確認長0.75 m、燃焼部幅0.66 m、煙道は壁外に0.50 m突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口から北西方向に灰層の堆積が確認される。燃焼部壁構築部材として軒平瓦が使用されている。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄褐色砂粒ブロックを微量含む暗褐色土により構築されている。出土遺物 カマド覆土より須恵器高台付坏(1)、覆土より土器転用紡錘車片(2)、カマド構築部材として軒平瓦(3)が出土している。この軒平瓦は上野国分寺創建期Ⅱに該当する偏行唐文P 010である。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-14号住居跡 (Fig11, PL.4)

位置 X 85, Y 226・227 主軸方向 N-94°-E 規模 東西軸(1.22) m、南北軸(4.22) m、壁現高0.09 m。調査区西壁において東半部のみ検出であり、西半は調査区外となる。面積 (3.09) m² 床面 やや凹凸があり、硬化は弱い。重複 H-6・13と重複し、新旧関係はH-13→本遺構→H-6である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 細かい凹凸面に少量の黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 図示し得た遺物はない。時期 重複関係から判断すると、10世紀末～11世紀前半と想定される。





H-15号住居跡 (Fig.12・25, PL.4・5・14)

位置 X 88・89, Y 232・233 主軸方向 N-104°-W 規模 東西軸4.37m, 南北軸5.41m, 壁現高0.41m。
面積 18.19㎡ 床面 全体的にやや硬化している。重複 W-1, H-17・34, D-31と重複し、新旧関係はW-1, H-34→本遺構→H-17→D-31である。カマド 西壁南寄りに1基検出。確認長1.11m、燃焼部幅0.61m、煙道は壁外に0.60m突出している。天井部は完全に崩落しており、燃焼部側壁は被熱により、よく焼土化している。焚口外部の灰層の流出は少ない。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む暗褐色土により構築される。出土遺物 床面直上より須恵器高台付環(1)、こも編石(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から8世紀初頭と想定される。

H-16号住居跡 (Fig.13, PL.5)

位置 X 89・90, Y 231 主軸方向 N-9°-W 規模 東西軸(0.56)m, 南北軸(1.75)m, 壁現高0.45m。調査区東壁においてカマドおよび西壁付近のみの検出であり、大半は調査区外となる。面積 (0.64)㎡ 床面 やや硬化が弱い。重複 H-22と重複し、新旧関係は本遺構→H-22である。カマド 西壁に1基検出。確認長0.92m、燃焼部幅0.47m、煙道は壁外に0.74m突出している。両側壁は3個ずつ、天井部は4個の粗粒安山岩を構築部材として使用している。燃焼部の焼土 貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず 掘り方 浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを充填して構築されている。出土遺物 小破片のみで、図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向から7世紀後半から8世紀初頭と想定される。

H-17号住居跡 (Fig.12・25, PL.5・14)

位置 X 89・90, Y 232・233 主軸方向 N-83°-E 規模 東西軸(3.52)m, 南北軸3.17m, 壁現高0.24m。
面積 (6.51)㎡ 床面 平坦で硬化が弱い。重複 H-15・22・34, I-1, W-1と重複し、新旧関係はH-34, W-1→H-15→本遺構→H-22→I-1である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを充填して構築されている。出土遺物 覆土中より須恵器環(1)、床面直上より土師質環(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-18号住居跡 (Fig.13・14・25, PL.5・14)

位置 X 88・90, Y 233・234 主軸方向 N-82°-E 規模 東西軸4.88m, 南北軸(4.06)m, 壁現高0.36m。調査区南壁において北半のみ検出であり、住居跡南壁付近は調査区外となる。面積 (14.90)㎡ 床面 全体的によく硬化している。重複 H-34, D-17・22と重複し、新旧関係はH-34→本遺構→D-17・22である。カマド 東壁に1基検出。確認長1.66m、燃焼部幅0.74m、煙道は壁外に0.88m突出している。燃焼部奥壁が急激に立ち上がり、煙道の掘り込みは浅い。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロック、As-C軽石粒を少量含んだ黒褐色土により構築されている。出土遺物 覆土中から須恵器盤(1)、土師器環(2~4)、土師器塊(5)、こも編石(6)が出土している。時期 出土遺物に若干の時期差が窺われ、7世紀半ばから8世紀中葉と想定される。

H-19号住居跡 (Fig.14・26, PL.6・14)

位置 X 85・86, Y 228~230 主軸方向 N-81°-E 規模 東西軸(1.93)m, 南北軸(5.73)m, 壁現高0.36m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。面積 (8.63)㎡ 床面 カマド付近と住居中央部のみ硬化している。重複 H-6, D-16・20・21と重複し、新旧関係はD-21→本遺構→D-16・20→H-6である。カマド 東壁北側に2基検出。新旧関係は南側が新しく、北側が古い。北カマドは軸方向N-87°-E、確認長0.28m、燃焼部幅0.42m、煙道先端はD-16と重複しており、突出部の残存値は0.14mである。火床部に焼土層が確認されるものの、灰層および住居内への崩落土の流れ込みは認められな





い。南カマドは軸方向 $N-103^{\circ}-E$ 、確認長 1.36 m、燃焼部幅 0.76 m、煙道は壁外に 0.66 m 突出している。向かって右手前と左奥壁に構築部材と思われる粗粒安山岩が各 1 点出土しており、灰層が罅口から住居内へ北西方向に堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 所謂、「かわらけ状の坏」が 3 点、カマド覆土から、構築部材と考えられる円筒埴輪片が 1 点出土している。土師質坏は 1 がカマド、2・3 が住居覆土、4 がカマド覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 11 世紀台と想定される。

H-20 号住居跡 (Fig.10・11・26, PL.4・6・14)

位置 X 88・91、Y 230・231 主軸方向 $N-90^{\circ}-E$ 規模 東西軸 4.71 m、南北軸 5.80 m、壁現高 0.28 m。

面積 22.54 m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-11・12・16、D-1、P-5・6・9 と重複し、新旧関係は H-16 → H-12 → H-11 → 本遺構 → P-5・6・9、D-1 である。カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 2.04 m、燃焼部幅 0.96 m、煙道は壁外に 1.29 m 突出している。構築部材として右奥壁に平瓦と粗粒安山岩、煙道にかけて丸瓦が各 1 点出土している。貯蔵穴 住居中央南寄りから長軸 0.81 m、短軸 0.69 m、深さ 0.52 m、平面楕円形、南西隅から長軸 0.79 m、短軸 0.67 m、深さ 0.55 m、平面楕円形の計 2 基が検出されている。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸に As-C 軽石粒を微量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 土師質坏 (1~3)、手捏土器 (4)、丸瓦 (5)、平瓦 (6・7)、T 字状鉄製品 (8)、磨石 (9) が出土している。出土位置は床面直上 (1)、カマド (5~7)、貯蔵穴 (2・8)、覆土 (3・4・9) である。時期 出土遺物の傾向から 11 世紀台と想定される。

H-21 号住居跡 (Fig.10・26, PL.6・15)

位置 X 89・90、Y 229・230 主軸方向 $N-88^{\circ}-E$ 規模 東西軸 (2.06) m、南北軸 (3.45) m、壁現高 0.27 m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。面積 (2.76) m² 床面 住居中央部がやや硬化している。重複 H-12 と重複し、新旧関係は本遺構 → H-12 である。カマド 検出されず。

貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土で構築されている。出土遺物 床面直上から須器高台付坏 (1) が 1 点出土している。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H-22 号住居跡 (Fig.13, PL.6)

位置 X 89・90、Y 232・233 主軸方向 $N-105^{\circ}-E$ 規模 東西軸 (1.49) m、南北軸 (2.40) m、壁現高 0.59 m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。面積 (2.22) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-16、W-1、I-1 と重複し、新旧関係は W-1 → H-16 → 本遺構 → I-1 である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 小破片のみで図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀台と想定される。

H-23 号住居跡 (Fig.15・26, PL.6・15)

位置 X 87、Y 233 主軸方向 $N-90^{\circ}-E$ 規模 東西軸 (2.17) m、南北軸 (1.19) m、壁現高 0.12 m。表土掘削時に既に一部床面が露出している状況であり、残存部だけの調査となった。面積 (1.71) m² 床面 弱い硬化面が認められる。重複 H-25、D-29 と重複し、新旧関係は H-25 → 本遺構 → D-29 である。

カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックを少量、As-C 軽石粒を微量含む黒褐色土により構築される。出土遺物 床面直上より須器高台付坏 (1・2) が出土している。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H-24 号住居跡 (Fig.9・26, PL.15)

位置 X 85、Y 226・227 主軸方向 $N-126^{\circ}-E$ 規模 東西軸 (2.94) m、南北軸 (2.73) m、壁現高 0.08





m。面積 (1.80) m² 床面 全体的に硬化が弱い。重複 H-8・9・10、D-32と重複し、新旧関係は本遺構→H-8・10→D-32→H-9である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土により構築される。出土遺物 床面直上より土師器甕(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から8世紀前半と想定される。

H-25号住居跡 (Fig.15・26, PL.7・15)

位置 X 87, Y 232・233 主軸方向 N-91°-E 規模 東西軸 3.03 m、南北軸 3.39 m、壁現高 0.12 m。面積 8.57 m² 床面 カマド付近のみ硬化がみられる。重複 H-23・29、I-2と重複し、新旧関係はH-29→本遺構→H-23→I-2である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長 0.60 m、燃焼部幅 0.42 m、煙道は壁外に 0.35 m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 AsC軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 床面直上から、須臾器高台付坏2点(1・2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-26号住居跡 (Fig.16・27, PL.7・15)

位置 X 87, Y 231・232 主軸方向 N-89°-E 規模 東西軸 3.38 m、南北軸 3.10 m、壁現高 0.32 m。面積 8.47 m² 床面 全体的に硬化が弱い。重複 H-31・32、W-1、D-36と重複し、新旧関係はH-31、W-1→H-32→本遺構→D-36である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長 0.55 m、燃焼部幅 0.57 m、煙道は壁外に 0.31 m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面にAsC軽石を微量含む黒褐色土により構築される。出土遺物 床面直上より、灰釉陶器壺(1・2)、須臾器坏(3)、羽釜(4・5)、小型の土釜(6)、板状鉄製品(7)、白色基岩石の丸石(8)、磨石(9)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀半ばと想定される。

H-27号住居跡 (Fig.8・27, PL.7)

位置 X 86・87, Y 227~229 主軸方向 N-59°-E 規模 東西軸 (5.20) m、南北軸 (4.49) m、壁現高 0.03 m。面積 (18.85) m² 床面 全体的に薄い硬化面が認められる。重複 H-7、D-11・23・25・27・28・33・35・37、P-20と重複し、新旧関係はD-37→本遺構→D-33・35→D-23・25・27・28、P-20→H-7→D-11である。カマド 東壁に1基検出。煙道部の大半はトレンチにより削平されている。確認長 (0.50) m、燃焼部幅 (0.23) m、煙道は壁外に (0.01) m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 AsC軽石を少量含む黒褐色土により構築される。出土遺物 カマド付近床面直上より、須臾器高台付坏が出土している(1・2)。時期 出土遺物の傾向から10世紀台と想定される。

H-28号住居跡 (Fig.16・27, PL.7)

位置 X 85・86, Y 226・227 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸 (3.21) m、南北軸 (4.19) m、壁現高 0.20 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。なお、表土掘削時に既にカマド構築材の石が露出している状況であり、一部断面での確認となっている。面積 (7.00) m² 床面 部分的に非常に弱い硬化面が認められる。重複 H-31、D-38と重複し、新旧関係はH-31→本遺構→D-38である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長 1.41 m、燃焼部幅 0.59 m、煙道は壁外に 0.90 m突出している。構築部材と思われる粗粒安山岩3点が覆土中より出土している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 AsC軽石を少量含む暗褐色土により構築される。出土遺物 カマドより須臾器坏(1)、羽釜(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀半ばと想定される。

H-29号住居跡 (Fig.15・27, PL.7・15)

位置 X 86~88, Y 232~233 主軸方向 N-97°-E 規模 東西軸 (2.97) m、南北軸 5.05 m、壁現高 0.59 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。面積 (10.69) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-25・31、W-1と重複し、新旧関係はH-31→本遺構→H-25、W-1である。



カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.90 m、燃焼部幅0.58 m、袖の残存長は右側(南)が0.70 m、左(北)が0.40 m、煙道は壁外に0.22 m突出している。煙道の壁面への掘り込みは少ない。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色土により構築されている。出土遺物 床面直上より土師器杯(1~5)、土師器甕(6)、刀子(7)が出土している。時期 出土遺物の傾向から8世紀半ばと想定される。

H-30号住居跡 (Fig.18・28, PL.15)

位置 X 86・87, Y 230・231 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(3.06) m、南北軸(4.40) m、壁現高0.19 m。カマドの存在が想定される南東側は、掘乱により削平されている。面積 (657) m² 床面 やや凹凸があり、硬化は弱い。重複 H-31と重複しており、新旧関係はH-31→本遺構である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 床面直上より灰軸陶器埴(1)、須恵器高台付杯(2)、刀子(3)磨石(4)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-31号住居跡 (Fig.17・28, PL.8・15)

位置 X 86~88, Y 230~232 主軸方向 N-69°-E 規模 東西軸(5.80) m、南北軸4.99 m、壁現高0.52 m。検出であり、住居跡中央から北東にかけては掘乱により削平されている。面積 (1623) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-26・28・29・30・32、I-3と重複し、新旧関係は本遺構→H-29→H-28・30・32→H-26→I-3である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長1.01 m、燃焼部幅0.53 m、煙道は壁外に0.69 m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 床面直上より土師器杯(1~3)、土師器皿(4)、こも編石(5~7)が出土している。2はやや古相を示す。時期 出土遺物の傾向から7世紀後半から8世紀初頭と想定される。

H-32号住居跡 (Fig.18・28, PL.7・8・15)

位置 X 87・88, Y 231・232 主軸方向 N-178°-E 規模 東西軸(3.03) m、南北軸(3.58) m、壁現高0.16 m。面積 (981) m² 床面 カマド付近を中心として若干の硬化が認められる。重複 H-26・31、I-3、W-1と重複し、新旧関係はW-1、H-31→本遺構→H-26→I-3である。カマド 南壁西寄りに検出。確認長0.69 m、燃焼部幅0.32 m、煙道は壁外に0.06 m突出している。煙道の壁面への掘り込みは少ない。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。出土遺物 床面直上より土師質高台付杯(1)、砥石(3)磨石(4)、覆土中より土師質杯(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-33号住居跡 (Fig.18, PL.8)

位置 X 85, Y 230 主軸方向 N-78°-E 調査区西壁において、カマド煙道部のみ検出であり、大半は調査区外となる。面積 (0.23) m² 床面 不明。重複 無し。カマド 主軸方向検出長0.44 m、直交幅0.61 m。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 不明。出土遺物 カマド覆土中より須恵器杯(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-34号住居跡 (Fig.12)

位置 X 88・89, Y 226・227 主軸方向 N-6°-W 規模 東西軸(3.76) m、南北軸(2.31) m、壁現高0.22 m。面積 (290) m² 床面 やや硬化している。重複 H-15・17・18・34、D-31と重複し、新旧関係は本遺構→H-18→H-17→H-15→D-31である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。出土遺物 図示し得た遺物はない。時期 重複関係から、7世紀後半以前と想定される。





(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.19, PL. 8)

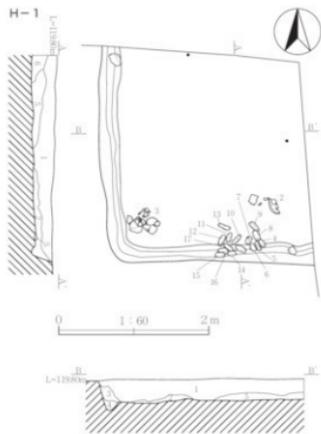
位置 X 86 ~ 90, Y 232 主軸方向 N - 89° - E 規模 長さ (14.18 m) 上幅 1.06 m 下幅 0.66 m 深さ 0.57 m 形状等 東西方向に走向し、断面U字状を呈する。重複 H - 15・17・22・26・29・32, I - 1と重複している。新旧関係は、H - 29 → 本遺構 → H - 15・17・22・26・32, I - 1である。出土遺物 須恵器、土師器、石製品が出土しているが、図示にいたらず。時期 重複関係から8世紀半ば以降、10世紀以前と考えられる。備考 通水の痕跡は認められない。

(3) 井戸、土坑、ピット (Fig.19 ~ 23, PL. 8・9・15)

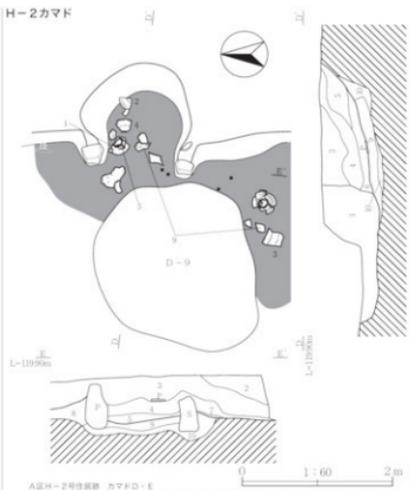
A区では井戸3基、土坑38基、ピット18基を確認している。各計測値については「Tab. 2 A区井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

Tab. 2 A区井戸・土坑・ピット計測表

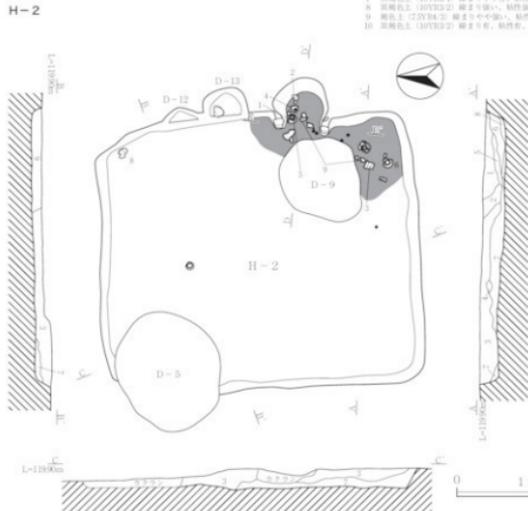
遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	平面形状	遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	平面形状	遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	平面形状
D-1	X 86, Y 232	1.06	0.66	0.57	溝跡	D-18	X 86, Y 232	0.80	0.60	0.50	土坑	F-1	X 86, Y 232	0.52	0.54	0.60	ピット
D-1-1	X 87, Y 231	1.36	1.14	0.60	溝跡	D-19	X 86, Y 232	0.80	0.60	0.50	土坑	F-2	X 86, Y 232	0.50	0.50	0.60	ピット
D-1-2	X 87, Y 231	1.36	1.14	0.60	溝跡	D-20	X 86, Y 232	0.80	0.60	0.50	土坑	F-3	X 86, Y 232	0.52	0.50	0.55	ピット
D-2	X 86, Y 228	1.05	0.67	0.53	溝跡	D-21	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-4					
D-2-1	X 86, Y 228	1.10	0.65	0.53	溝跡	D-22	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-5	X 86, Y 230	0.52	0.53	0.53	ピット
D-2-2	X 86, Y 228	1.10	0.65	0.53	溝跡	D-23	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-6	X 86, Y 230	0.54	0.58	0.45	ピット
D-3	X 87, Y 227	1.47	1.40	0.50	溝跡	D-24	X 86, Y 227	0.80	0.60	0.50	土坑	F-7	X 86, Y 227	0.50	0.46	0.57	ピット
D-4	X 86, Y 227	1.31	1.13	0.57	溝跡	D-25	X 87, Y 228	0.78	0.60	0.54	溝跡	F-8	X 86, Y 227	0.64	0.46	0.51	溝跡
D-5	X 86, Y 227	1.29	1.25	0.58	溝跡	D-26	X 87, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-9	X 86, Y 230	0.53	0.46	0.55	溝跡
D-6	X 86, Y 227	1.34	1.16	0.53	溝跡	D-27	X 87, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-10	X 86, Y 228	0.58	0.57	0.57	溝跡
D-7	X 86, Y 227	1.38	1.19	0.53	溝跡	D-28	X 87, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-11	X 87, Y 229	0.52	0.50	0.58	溝跡
D-8	X 86, Y 227	1.35	1.16	0.53	溝跡	D-29	X 86, Y 228	0.72	0.60	0.50	溝跡	F-12	X 85, Y 227	0.50	0.50	0.58	溝跡
D-9	X 86, Y 228	1.15	0.70	0.54	溝跡	D-30	X 86, Y 228	0.72	0.60	0.50	溝跡	F-13	X 87, Y 228	0.64	0.62	0.54	溝跡
D-10	X 86, Y 228	1.15	0.70	0.54	溝跡	D-31	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-14	X 87, Y 228	0.64	0.62	0.54	溝跡
D-11	X 86, Y 227	1.07	0.77	0.59	溝跡	D-32	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-15	X 87, Y 229	0.52	0.52	0.58	溝跡
D-12	X 86, Y 227	0.96	0.74	0.55	溝跡	D-33	X 87, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-16	X 86, Y 230	0.51	0.45	0.45	溝跡
D-13	X 86, Y 227	0.98	0.76	0.55	溝跡	D-34	X 87, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-17	X 86, Y 229	0.61	0.60	0.59	溝跡
D-14	X 86, Y 228	1.18	0.63	0.58	溝跡	D-35	X 86, Y 228	0.75	0.64	0.57	溝跡	F-18	X 86, Y 229	0.59	0.58	0.58	溝跡
D-15	X 86, Y 228	1.02	0.72	0.58	溝跡	D-36	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑	F-19	X 86, Y 229	0.48	0.45	0.58	溝跡
D-16	X 86, Y 228	0.98	0.67	0.55	溝跡	D-37	X 86, Y 228	0.80	0.60	0.50	土坑						
D-17	X 86, Y 231	1.30	1.10	0.59	溝跡												



- A区H-1明透図解 A・B
- 1 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取をやや多く、黄褐色砂質土アロッドを少量含む。
 - 2 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 3 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 4 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 5 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 6 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。



- A区H-2明透図解 カマド・E
- 1 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 2 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 3 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 4 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 5 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 6 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 7 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 8 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 9 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 10 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。



- A区H-2明透図解 A・B・C
- 1 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取をやや多く、AsFアロッドを少量含む。
 - 2 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 3 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 4 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 5 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 6 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 7 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 8 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 9 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。
 - 10 築地土 (HVE2-2) 締まりや中、松竹や中、AsC類石取を少量含む。

Fig 6 A区H-1・2号住居跡



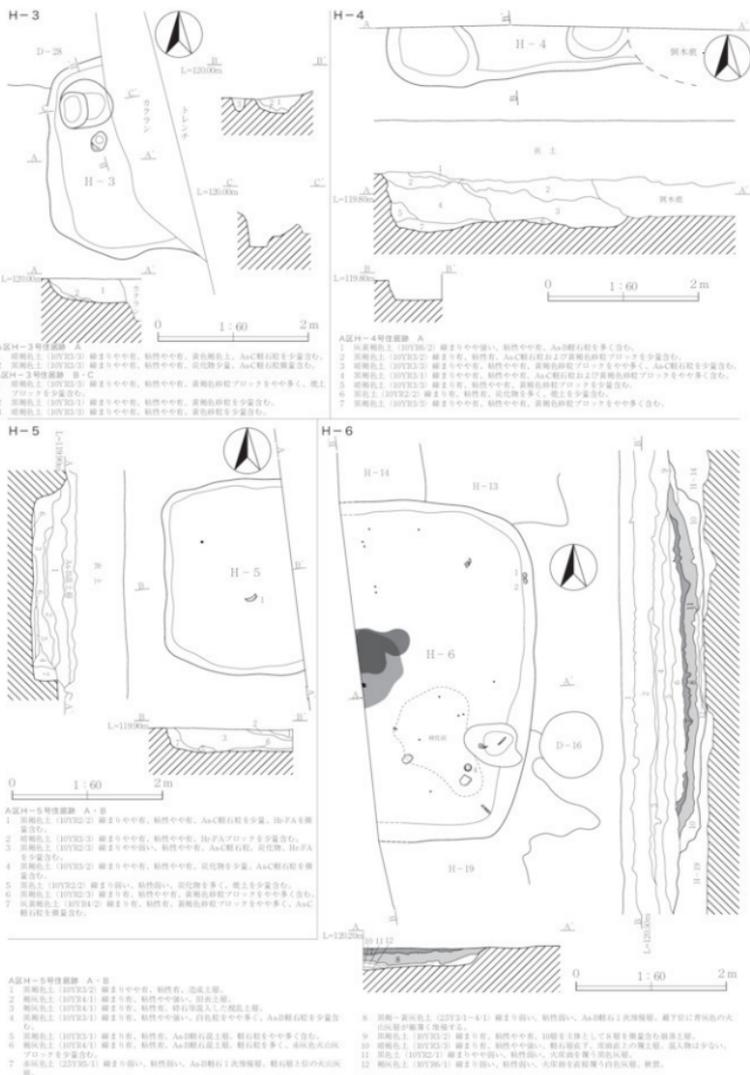


Fig.7 A区H-3・4・5・6号住居跡

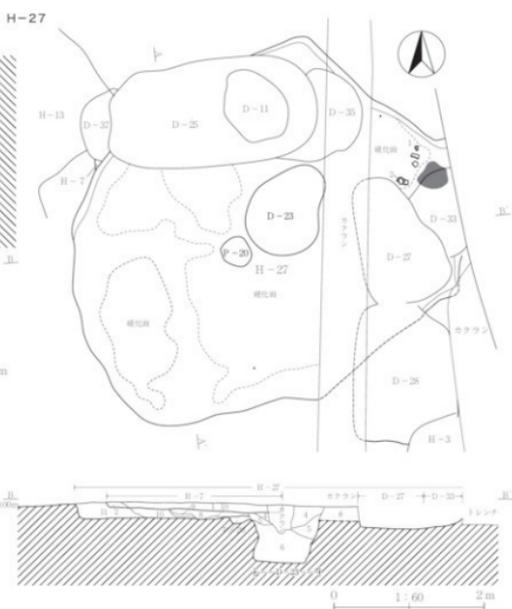
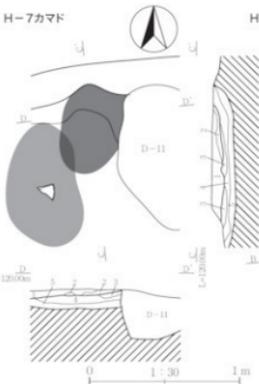
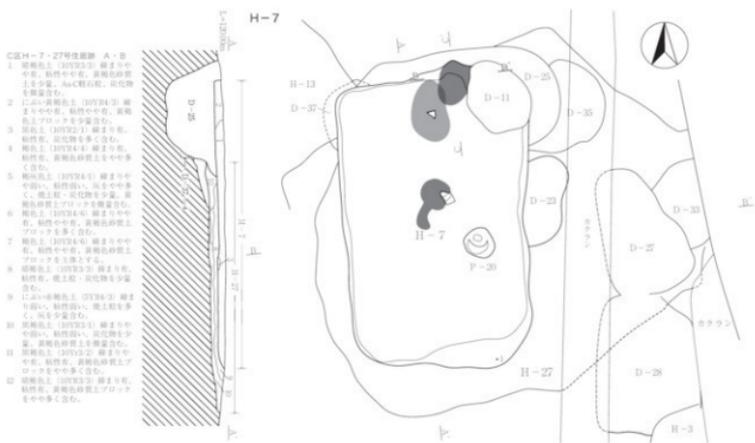
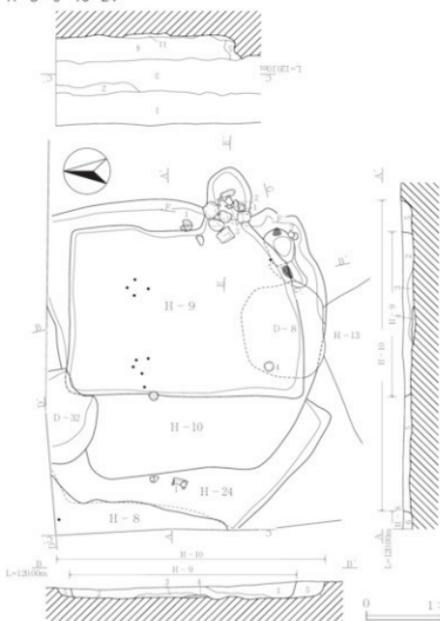


Fig.8 A区H-7・27号住居跡





H-8・9・10・24



A区H-8・9・10居住層部 A・B

- 1 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色砂質土プロット、AsC粒石少量含む。
 - 2 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、AsC粒石少量含む。
 - 3 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物を主体とする。
 - 4 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物少量、塊土粒少量含む。
 - 5 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色砂質土プロット少量、塊土粒、AsC粒石少量含む。
 - 6 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物を主体とする。
- A区H-9居住層部 C・D
- 1 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、塊土上層。
 - 2 吹抜け上 (10Y341) 縦まじり中層、粘接着、砂石を混入した塊土上層。
 - 3 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着中層、白土粒を中層多し、AsC粒石少量含む。
 - 4 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、AsC粒石、塊土を中層少量含む。
 - 5 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物少量、AsC粒石、塊土を中層少量含む。
 - 6 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色砂質土を中層多し含む。
 - 7 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物、白土粒を中層少量含む。
 - 8 吹抜け上 (10Y343) 縦まじり中層、粘接着、塊土プロットを中層少量含む。
 - 9 吹抜け上 (10Y343) 縦まじり中層、粘接着中層、塊土プロットを中層少量含む。
 - 10 吹抜け上 (10Y343) 縦まじり中層、粘接着、塊土プロットを中層少量含む。
 - 11 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色土質砂土プロットを中層多し含む。
 - 12 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色砂質土プロットを中層多し、塊土粒少量含む。

H-9・10カマド

A区H-9居住層部カマド E・F

- 1 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、塊土粒、炭化物少量含む。
- 2 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物、塊土粒、白土粒少量含む。
- 3 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、炭化物中層少量含む。
- 4 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、塊土粒を中層少量含む。
- 5 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、塊土粒を中層少量含む。
- 6 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、塊土粒を中層少量含む。

A区H-10居住層部カマド G

- 1 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色砂質土を中層多し、AsC粒石少量含む。
- 2 吹抜け上 (10Y323) 縦まじり中層、粘接着、塊土を中層少量含む。
- 3 吹抜け上 (10Y341) 縦まじり中層、粘接着、塊土を中層少量含む。
- 4 吹抜け上 (10Y341) 縦まじり中層、粘接着、黄褐色砂質土を中層多し含む。

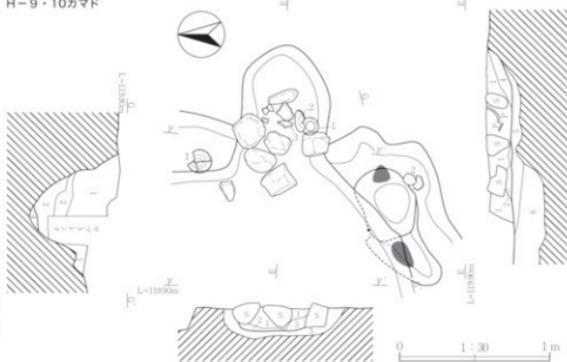


Fig.9 A区H-8・9・10・24号住居跡





- A区H-11・12・20・21号住居跡、D-1号土庫、A、B、C、D
- 1 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂、粘り強い、Asa層に属し土庫。
- 2 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土、灰白色粘質土粒を散見含む。
- 3 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、粗土、灰白色粘質土粒を少量含む。
- 4 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、灰土、灰白色粘質土粒を少量含む。
- 5 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、灰土、灰白色粘質土粒を少量含む。
- 6 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を含む。
- 7 土上・埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、高粘粘質土プロット主体、硬土粒を少量含む。
- 8 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬粘粘質土を少量含む。
- 9 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、黄褐色砂質土、硬土粒、Asa層に属し土庫を含む。
- 10 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を少量含む。
- 11 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土粒を少量含む。
- 12 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土粒を少量含む。
- 13 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を含む。
- 14 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を少量含む。
- 15 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、灰白色粘質土粒を少量含む。
- 16 灰白色土 10Y2.1/1 細まり中砂、粘り強い、灰土層。
- 17 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫、灰白色粘質土粒を散見含む。
- 18 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を含む。
- 19 赤土層
- 20 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を含む。
- 21 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を含む。
- 22 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を含む。
- 23 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土粒を少量含む。
- 24 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土粒を少量含む。
- 25 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土粒を少量含む。
- A区H-11号住居跡、D-1・2号土庫、1・2
- 1 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を少量含む。
- 2 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を少量含む。
- 3 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を少量含む。
- 4 灰白色土 10Y2.1/1 細まり中砂中、粘り中中砂、灰土層に属し土庫を含む。
- A区H-20号住居跡、D-1・2号土庫、A、L
- 1 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、Asa層に属し土庫を少量含む。
- 2 埋藏土 10YR2.5/2 細まり中砂中、粘り中中砂、硬土粒を少量含む。

Fig.10 A区H-11・12・20・21号住居跡

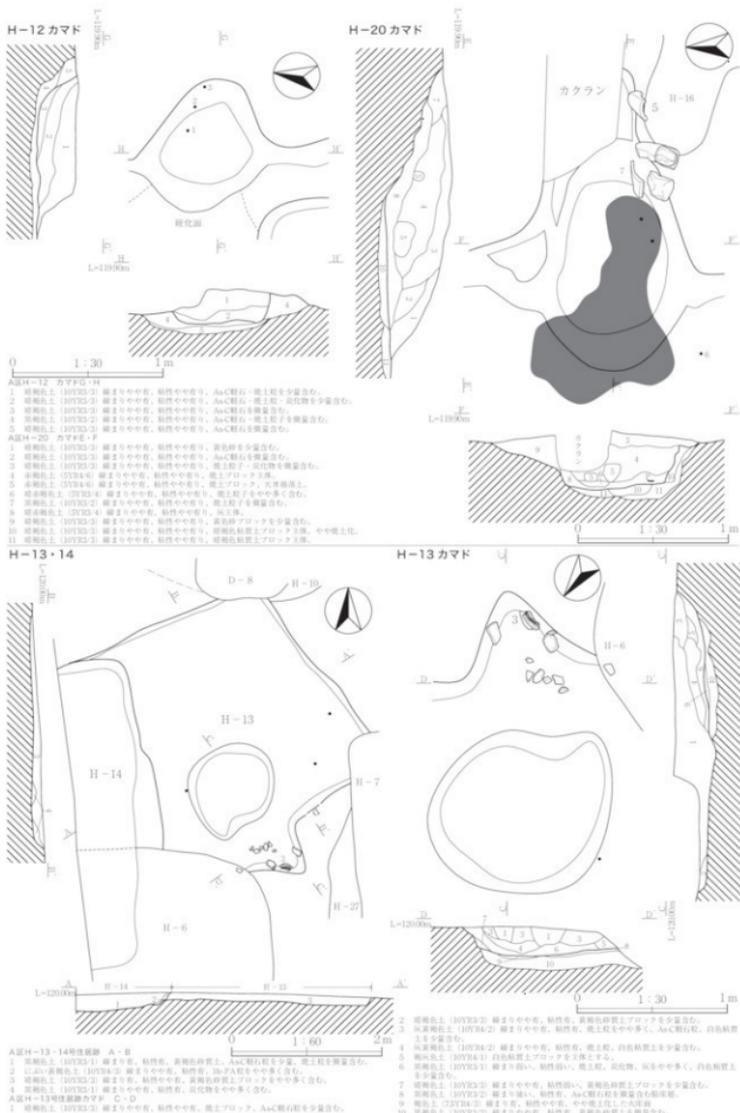
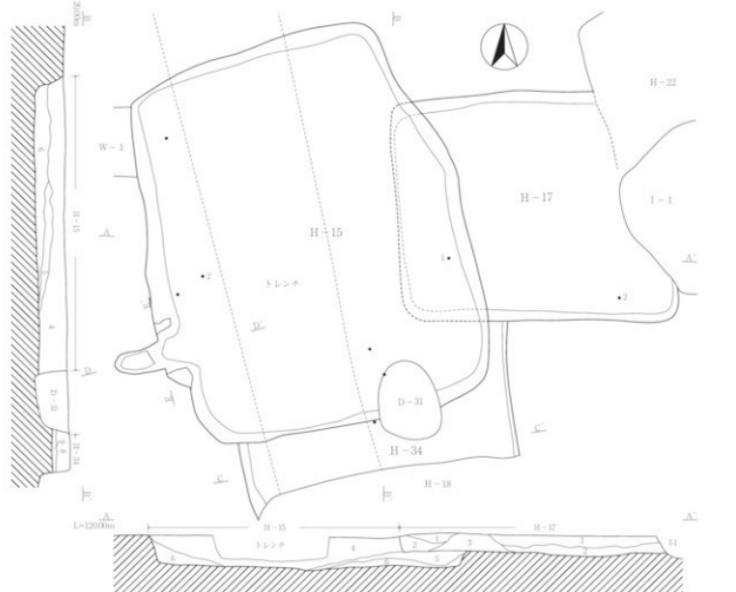


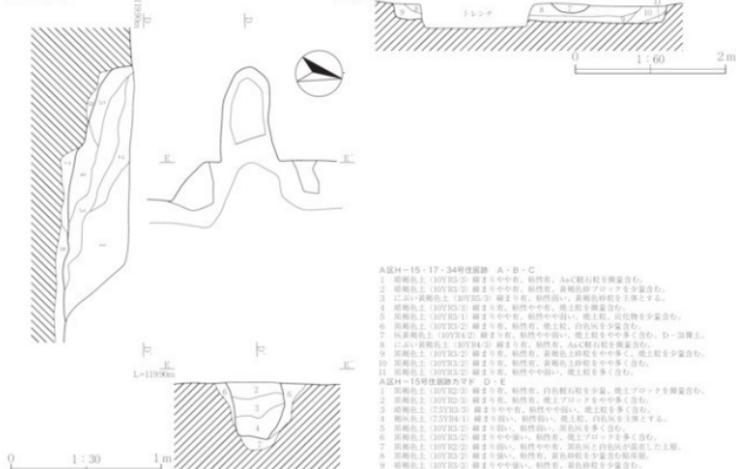
Fig.11 AKH-12・13・14・20号住居跡



H-15・17・34



H-15カマド



- A区H-15・17・34号住居跡 A・B・C
- 1 黒褐色土 (J0732) 締まりやや粗、粘性弱、赤褐色、AaC層右側に少量含む。
 - 2 黒褐色土 (J0732) 締まりやや粗、粘性弱、黒褐色、黒褐色アロクドを少量含む。
 - 3 Li土+黄褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、赤褐色、黒褐色アロクドを主層とする。
 - 4 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性やや強い、黄土層、灰化層を少量含む。
 - 5 黒褐色土 (J0732) 締まりやや粗、粘性やや強い、黄土層、灰化層を少量含む。
 - 6 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、黄土層、白灰土を少量含む。
 - 7 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性やや強い、黄土層、灰化層を少量含む。D-10層上。
 - 8 Li土+黄褐色土 (J0734) 締まり粗、粘性弱、赤褐色、AaC層右側に少量含む。
 - 9 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、黒褐色土に灰土をやや多く、黄土層を少量含む。
 - 10 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、黒褐色土に灰土をやや多く含む。
 - 11 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性やや強い、黄土層を多く含む。
- A区H-15号住居跡カマド D・E
- 1 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、白灰層右側に少量、黄土アロクドを少量含む。
 - 2 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、黄土アロクドをやや多く含む。
 - 3 黒褐色土 (J0732) 締まりやや粗、粘性やや強い、黄土層を多く含む。
 - 4 黒褐色土 (J0734) 締まりやや粗、粘性弱、黄土層、白灰土を主層とする。
 - 5 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、黄土層を多く含む。
 - 6 黒褐色土 (J0732) 締まりやや粗、粘性弱、黄土アロクドを少量含む。
 - 7 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性やや粗、黄土層、黄褐色土に白灰土を少量含む土層。
 - 8 黒褐色土 (J0732) 締まり粗、粘性弱、黄褐色土を少量含む粘土層。
 - 9 黒褐色土 (J0732) 締まりやや粗、粘性弱、黄褐色土を少量含む。

Fig.12 A区H-15・17・34号住居跡

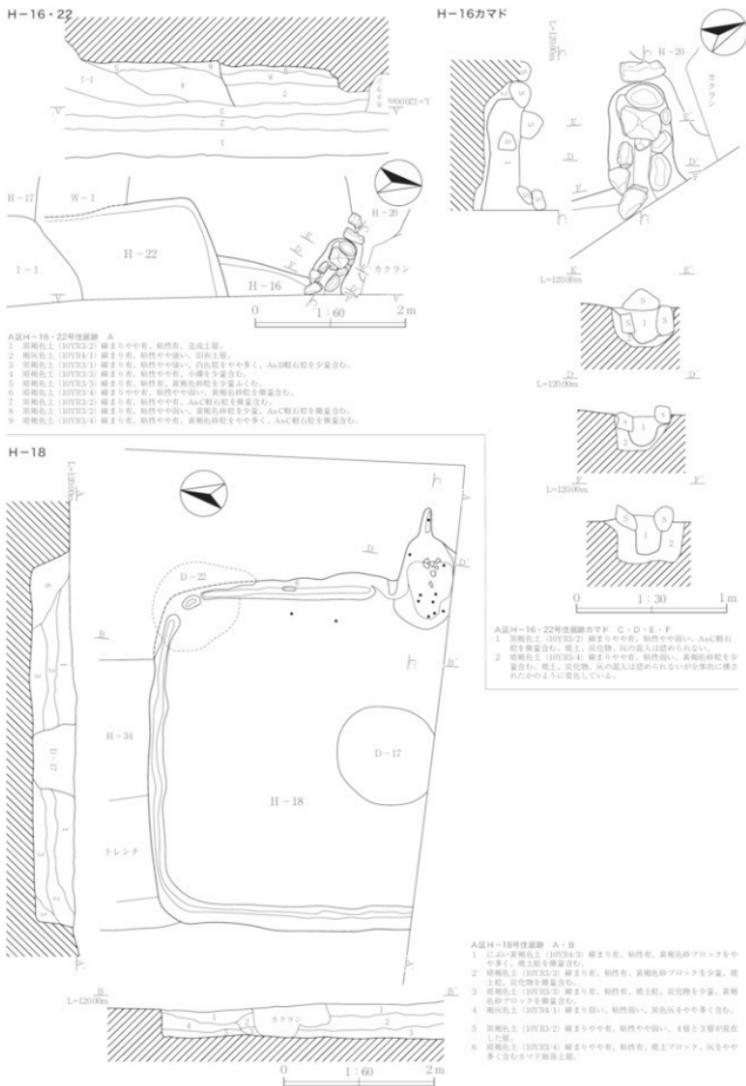
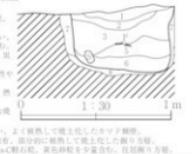


Fig.13 A区H-16・18・22号住居跡



H-18カメラド



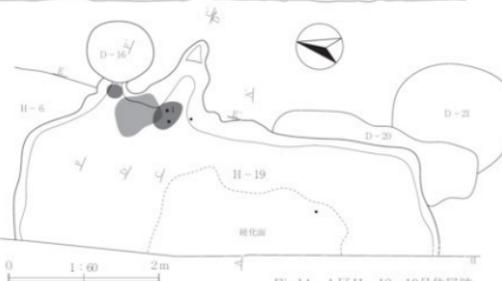
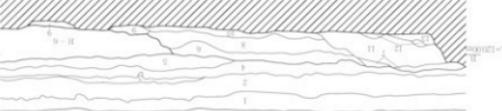
A区H-18号住居跡カメラド C・D

- 1 基層土 (J9Y32-2) 締まり有、粘性有、塊土状、粘質土ブロックを散見含む。
- 2 基層土上 (J9Y32-1) 締まりやや弱、粘性弱、塊土状、粘質土ブロックを少量含む。
- 3 基層土上 (J9Y32-3) 締まり弱い、粘性弱、塊土状、粘質土ブロックを少量含む。
- 4 1c1a1-硬面土上 (J9Y34-3) 締まりやや有、粘性やや弱、塊土上、ブロックを少量含む。
- 5 硬面土上 (J9Y34-2) 締まり弱い、粘性弱、硬面土上の白粉状面層を多く含む。
- 6 硬面土上 (J9Y34-1) 締まり有、粘性有、硬面土上を多く含む。
- 7 硬面土上 (J9Y32-5) 締まり有、粘性有、塊土状、粘質土ブロックを多く含む。
- 8 硬面土上 (J9Y32-4) 締まり有、粘性有、塊土状、粘質土ブロックを多く含む。
- 9 基層土上 (J9Y32-2) 締まり弱い、粘性有、AsC層状、黄色砂状を少量含む、片割あり。

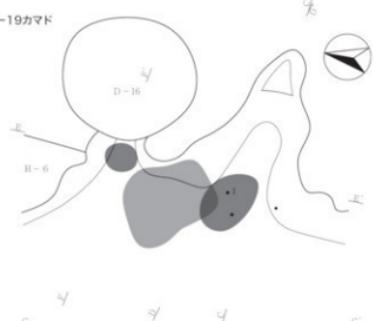
A区H-19号住居跡 A・B

- 1 硬面土上 (J9Y32-5) 締まりやや有、粘性有、造成土層。
- 2 硬面土上 (J9Y34-1) 締まり有、粘性やや弱、面状土層。
- 3 硬面土上 (J9Y34-2) 締まり有、粘性有、硬面土層の上に造成土層。
- 4 硬面土上 (J9Y32-3) 締まり有、粘性やや弱、白粉状を多く含む、AsC層状を少量含む。
- 5 硬面土上 (J9Y32-1) 締まり有、粘性有、AsC層状を多く含む、硬面土層を多く含む。
- 6 硬面土上 (J9Y32-2) 締まりやや有、粘性有、黄褐色砂状土ブロックを少量、AsC層状を散見含む。
- 7 硬面土上 (J9Y32-3) 締まり有、粘性やや弱、黄褐色砂状土、灰化層を少量含む。
- 8 硬面土上 (J9Y32-4) 締まり有、粘性有、黄褐色砂状土を多く含む。
- 9 硬面土上 (J9Y34-1) 締まり有、粘性有、黄褐色砂状土を多く含む、灰を少量含む。
- 10 硬面土 (J9Y32-1) 締まりやや有、粘性やや有、可成り、黄褐色砂状土を少量含む。
- 11 硬面土 (J9Y32-2) 締まりやや有、粘性やや有、硬土ブロックを少量、黄褐色砂状土を散見含む。
- 12 硬面土上 (J9Y32-3) 締まり有、粘性有、白粉状土ブロックを多く含む。
- 13 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性有、黄褐色砂状土を少量含む。

H-19



H-19カメラド



A区H-19号住居跡カメラド C・D・E・F

- 1 硬面土上 (J9Y32-3) 締まり有、粘性有、AsC層状、塊土状を少量含む。
- 2 硬面土上 (J9Y32-2) 締まりやや有、粘性有、灰化層を多く含む。
- 3 硬面土上 (J9Y34-3) 締まり有、粘性弱、塊土上ブロックを少量含む。
- 4 硬面土上 (J9Y32-5) 締まり有、粘性弱、塊土上ブロックを多く含む。
- 5 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性弱、塊土上ブロックを多く含む。
- 6 硬面土上 (J9Y32-1) 締まり有、粘性有、灰化層を多く含む、AsC層状を少量含む。
- 7 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性弱、大土の塊土ブロックを多く含む。
- 8 硬面土上 (J9Y32-3) 締まり有、粘性弱、灰化層を多く含む。
- 9 硬面土上 (J9Y32-1) 締まり有、粘性弱、塊土上ブロックを少量含む、黄褐色砂状土を少量含む。
- 10 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性有、灰化層を少量含む。
- 11 1c1a1-硬面土上 (J9Y34-3) 締まり有、粘性有、黄褐色砂状土ブロックを多く含む。
- 12 硬面土上 (J9Y32-3) 締まり有、粘性有、硬面土層の上に造成土層。
- 13 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性有、塊土上ブロックを少量含む。
- 14 硬面土上 (J9Y34-2) 締まり有、粘性有、粘質土層を多く含む。
- 15 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性有、灰化層を多く含む。
- 16 硬面土上 (J9Y32-2) 締まり有、粘性有、塊土上、灰化層を少量含む。

Fig.14 A区H-18・19号住居跡





A区H-23・25・29

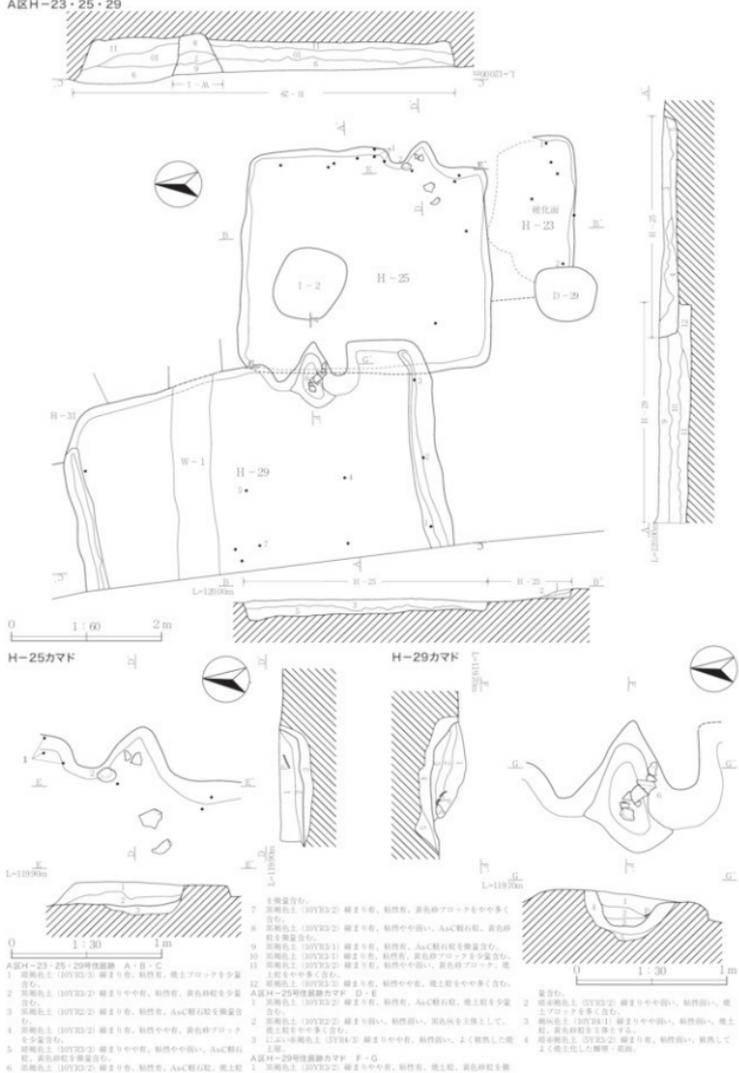


Fig15 A区H-23・25・29号住居跡

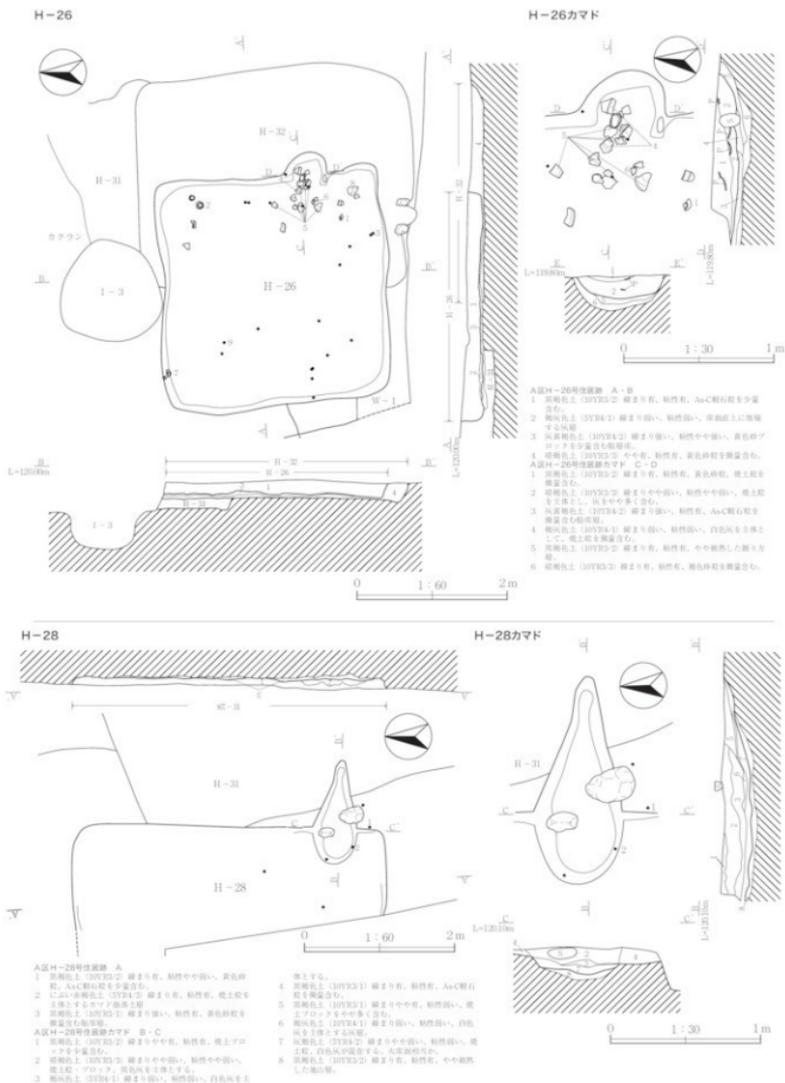
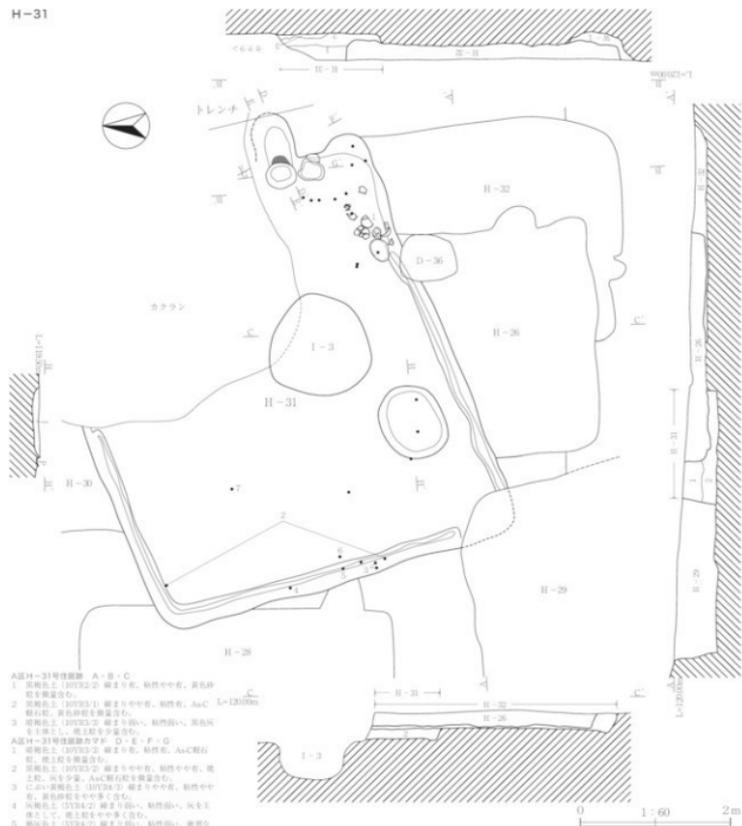


Fig.16 A区H-26・28号住居跡



H-31



A区H-31号住居跡 A・B・C

- 1 焼成土 (1973②) 縦まり中程、粘性中程、黄灰色粘土を露出含む。
- 2 焼成土 (1973②) 縦まり中程、粘性中程、AsC層の砂粒を露出含む。
- 3 焼成土 (1973②) 縦まり前、粘性弱い、黄灰色粘土層、地上部を露出含む。
- 4 焼成土 (1973②) 縦まり前、粘性弱い、黄灰色粘土を露出含む。

A区H-31号住居跡D・E・F

- 1 焼成土 (1973②) 縦まり中程、粘性中程、AsC層の砂粒を露出含む。
- 2 焼成土 (1973②) 縦まり中程、粘性中程、地上部、AsC層の砂粒を露出含む。
- 3 焼成土 (1973②) 縦まり中程、粘性中程、黄灰色粘土を露出含む。
- 4 焼成土 (1973②) 縦まり前、粘性弱い、黄灰色粘土を露出含む。

A区H-31号住居跡 H

- 1 焼成土 (1973②) 縦まり中程、粘性弱い、黄灰色粘土を露出含む。

H-31カマド

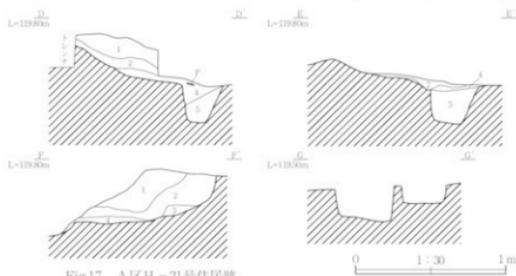
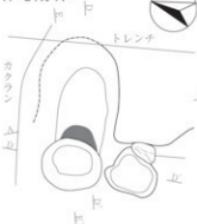
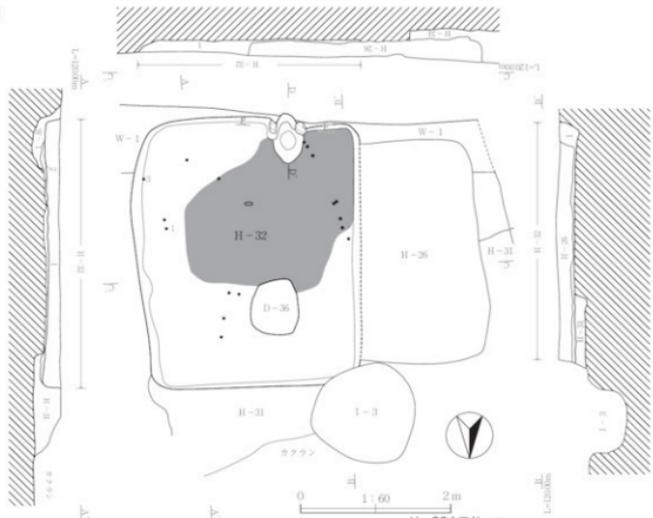


Fig 17 A区H-31号住居跡





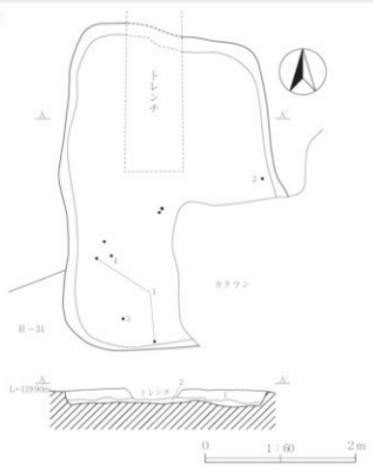
H-32



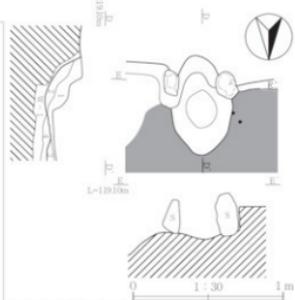
A区H-32号住居跡 A・B・C
 1 築相土上 10Y32(2) 竊まり中・中壁、粘性質、黄色砂状少量含む。
 2 築相土上 10Y32(3) 竊まり中・中壁、粘性質、黄色砂状少量含む。

H-32カマド

H-30

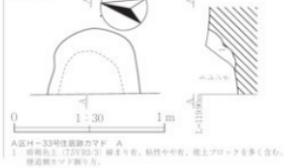


A区H-30号住居跡 A
 1 築相土上 10Y33(1) 竊まり中、粘性中・中、 Δ Ca(OH)₂少量含む。
 2 築相土上 10Y33(2) 竊まり中、粘性中・中、黄色砂状少量含む。



A区H-33号住居跡カマド D
 1 築相土上 10Y33(2) 竊まり中、粘性中、焼土粒を少量含む。
 2 築相土上 10Y32(2) 竊まり中・中壁、粘性中・中、焼土粒を少量含む。
 3 築相土上 10Y34(1) 竊まり中、粘性中、焼土粒を少量含む。
 4 二重・三重築土上 5Y34(5) 竊まり中、粘性中・中、水浸れ。

H-33



A区H-33号住居跡カマド A
 1 築相土上 10Y33(2) 竊まり中、粘性中・中、焼土70%を少量含む。
 2 築相土上 5Y34(5) 竊まり中。

Fig18 A区H-30・32・33号住居跡



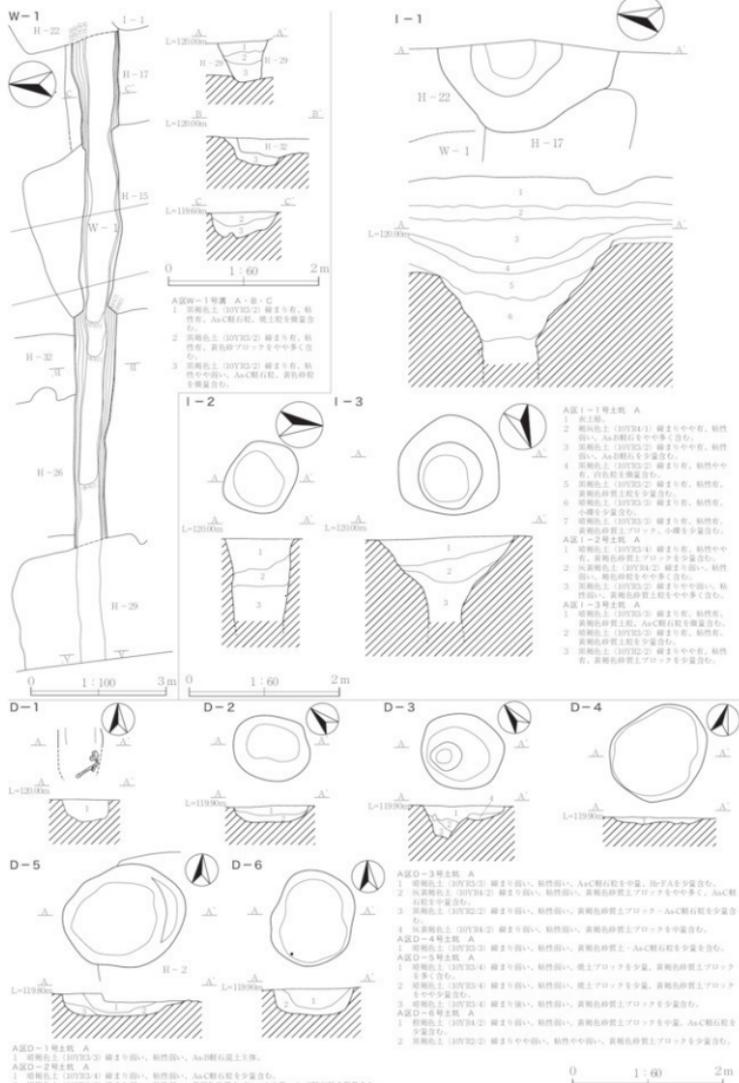


Fig.19 A区溝、井、土坑 (1)

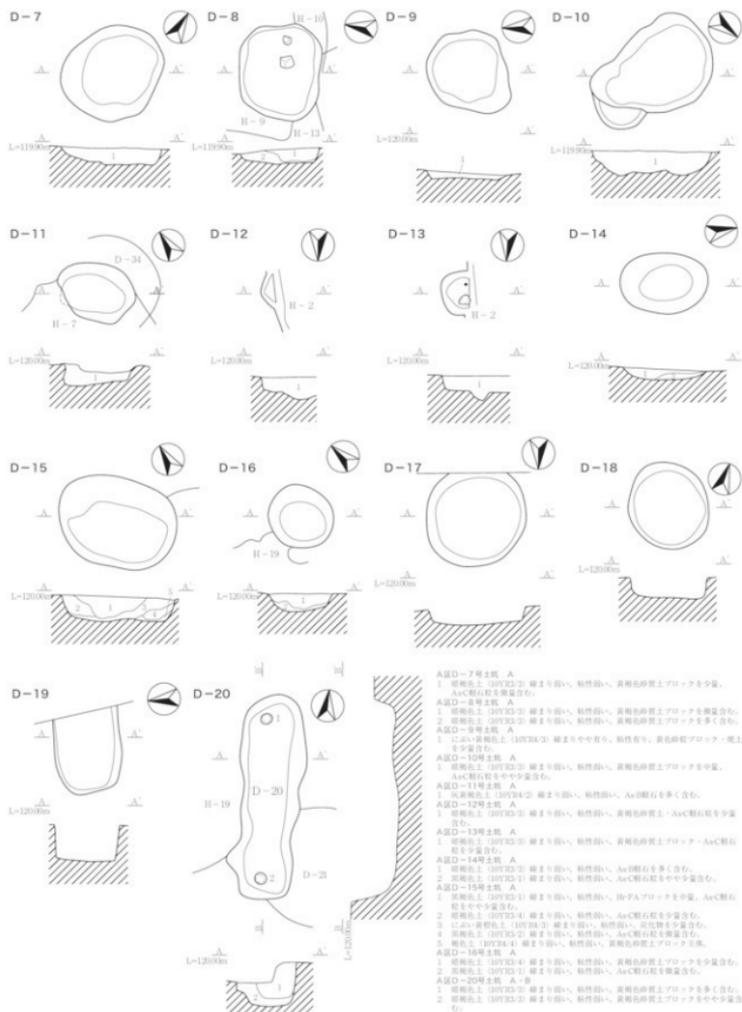


Fig.20 A区土坑 (2)

0 1:60 2m

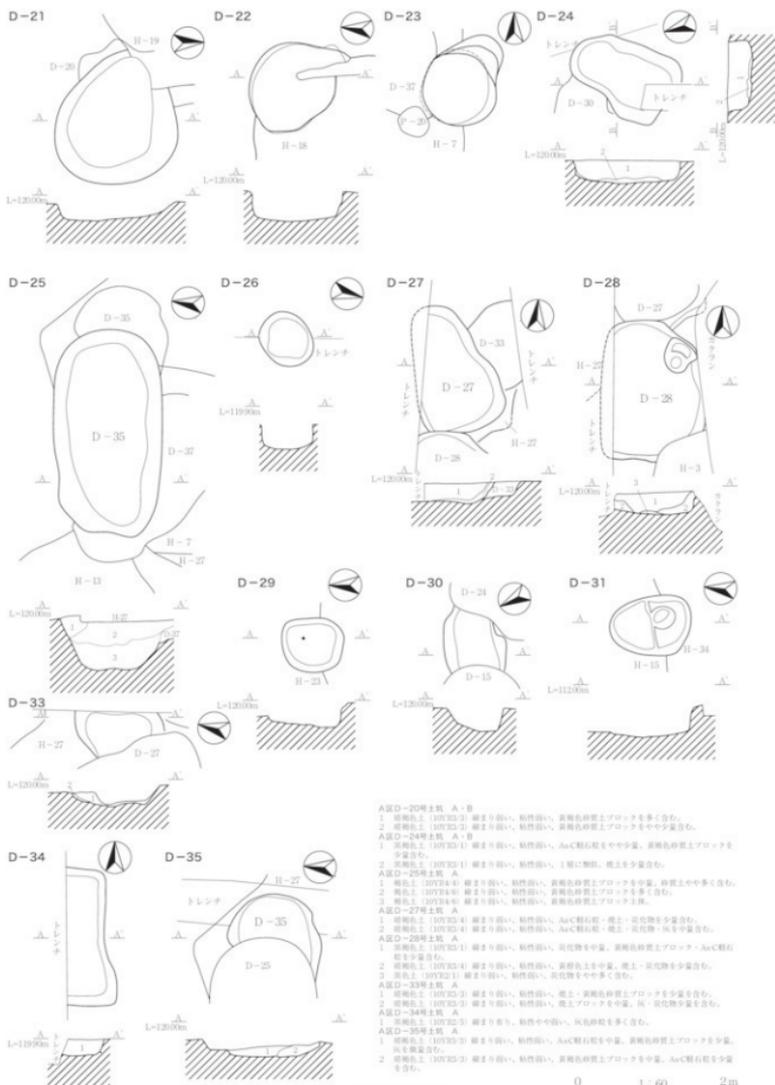


Fig.21 A区土坑 (3)

0 1:60 2m

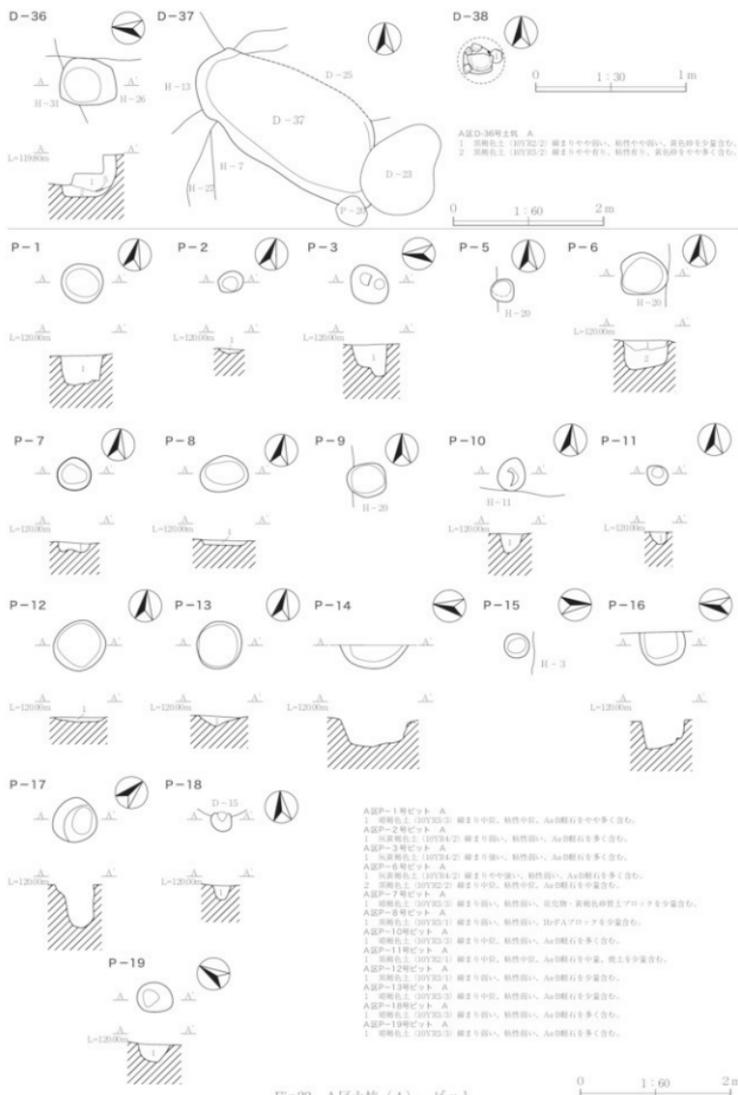


Fig.22 A区土坑（4）、ピット



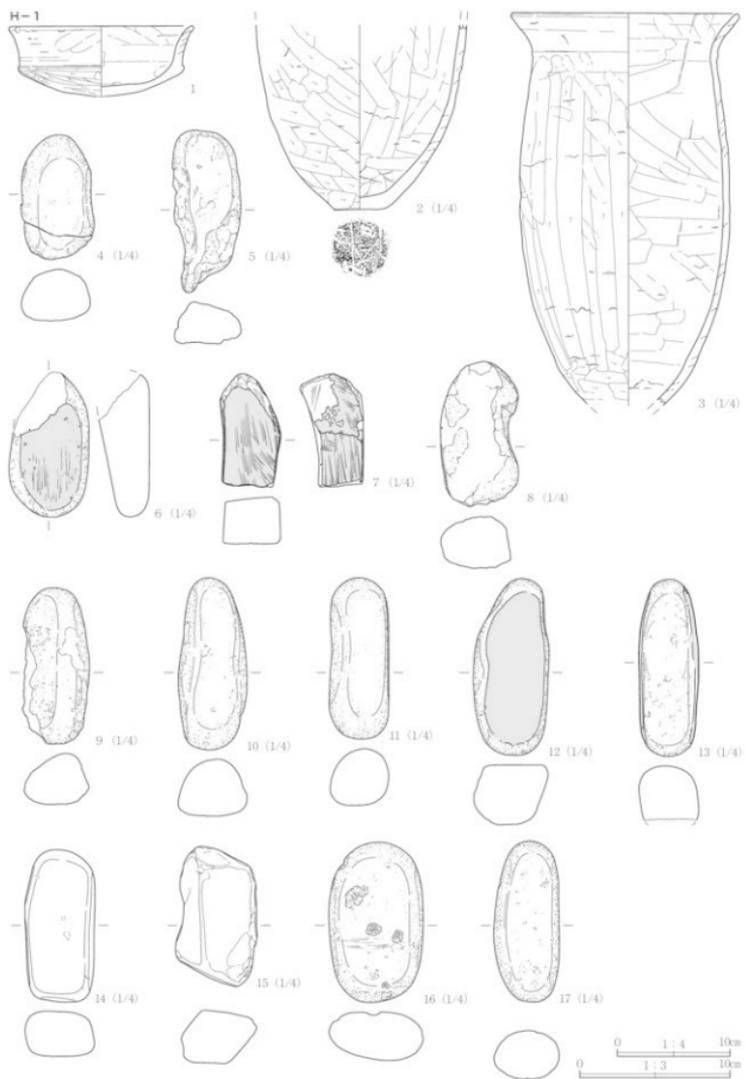


Fig23 A区H-1号住居跡出土遺物

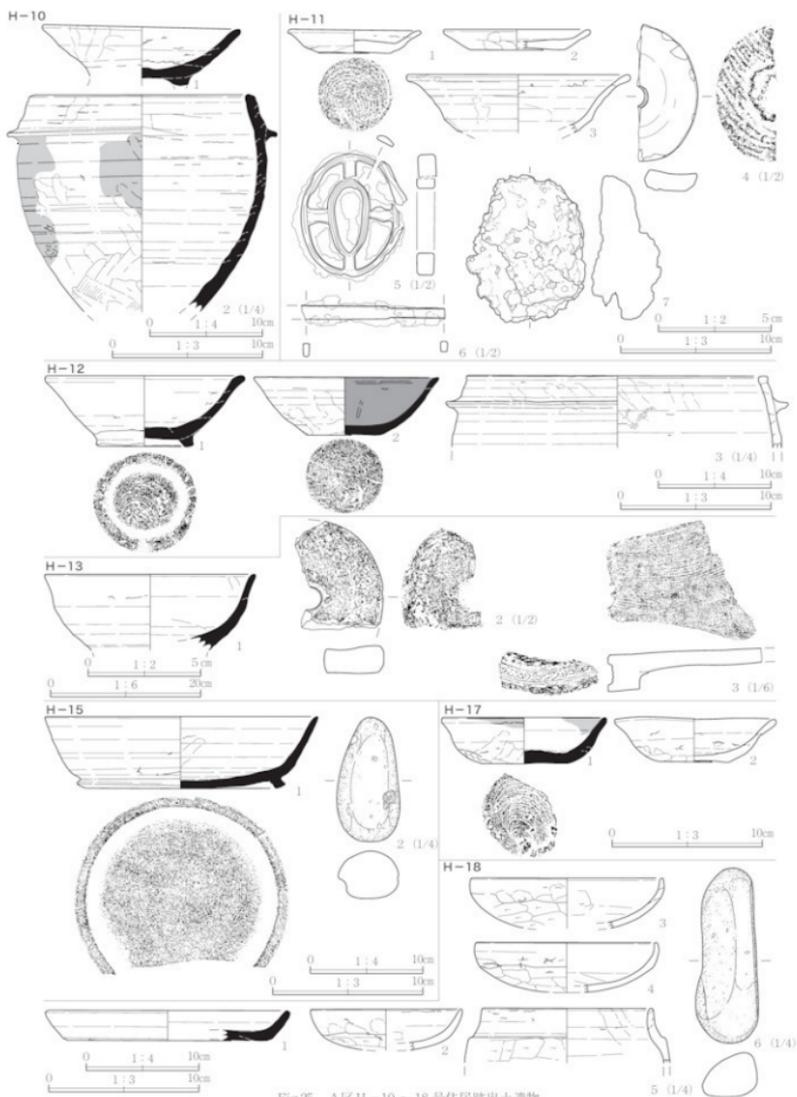


Fig.25 A区H-10~18号住居跡出土遺物

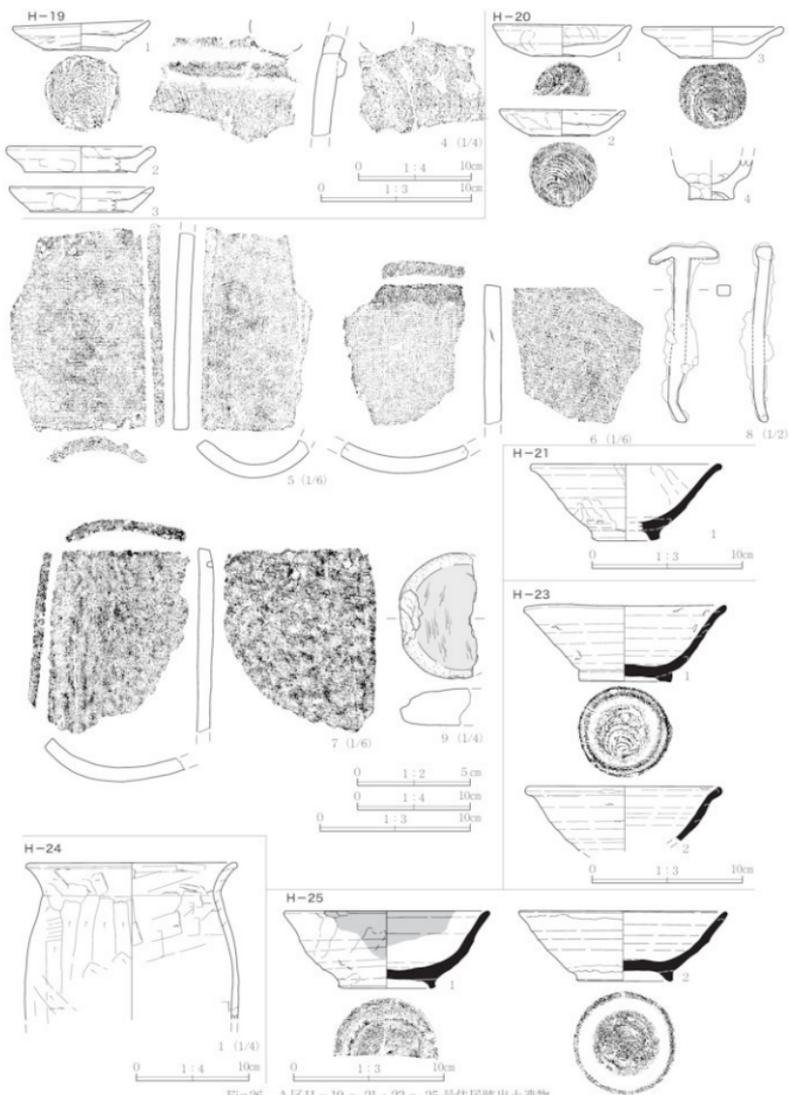


Fig.26 A区H-19~21·23~25号住居跡出土遺物

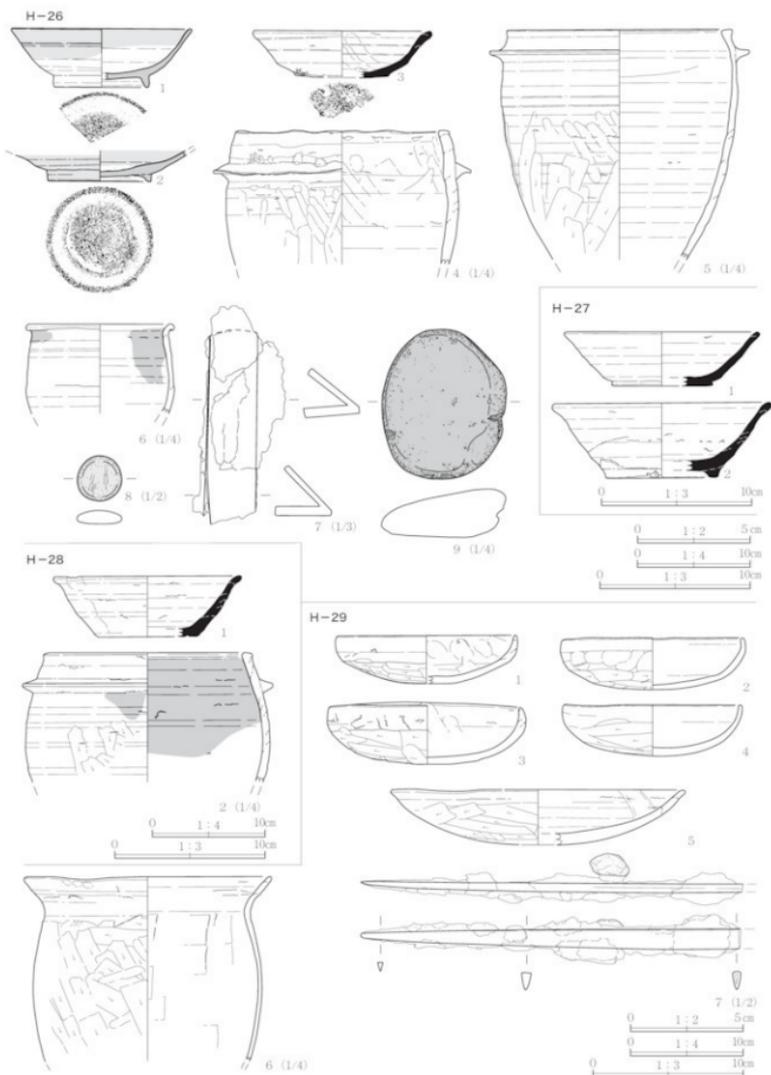


Fig.27 A区H-26~29号住居跡出土遺物

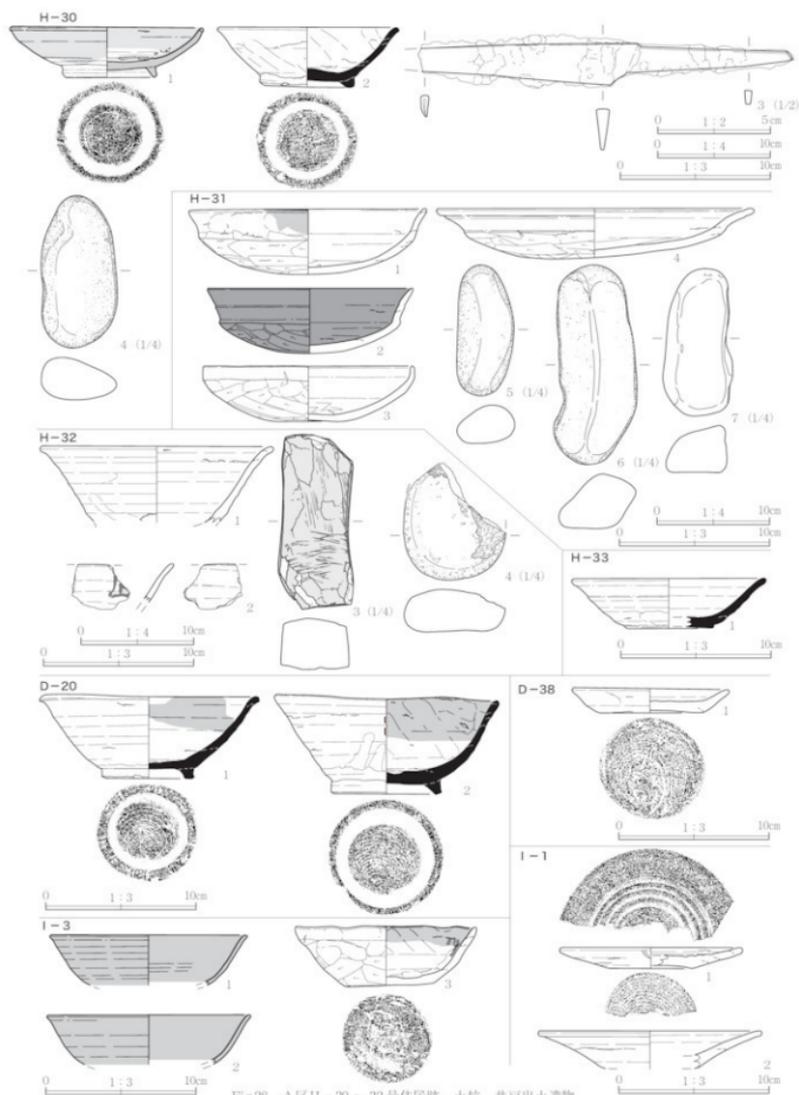


Fig.28 A区H-30~32号住居跡、土坑、井戸出土遺物



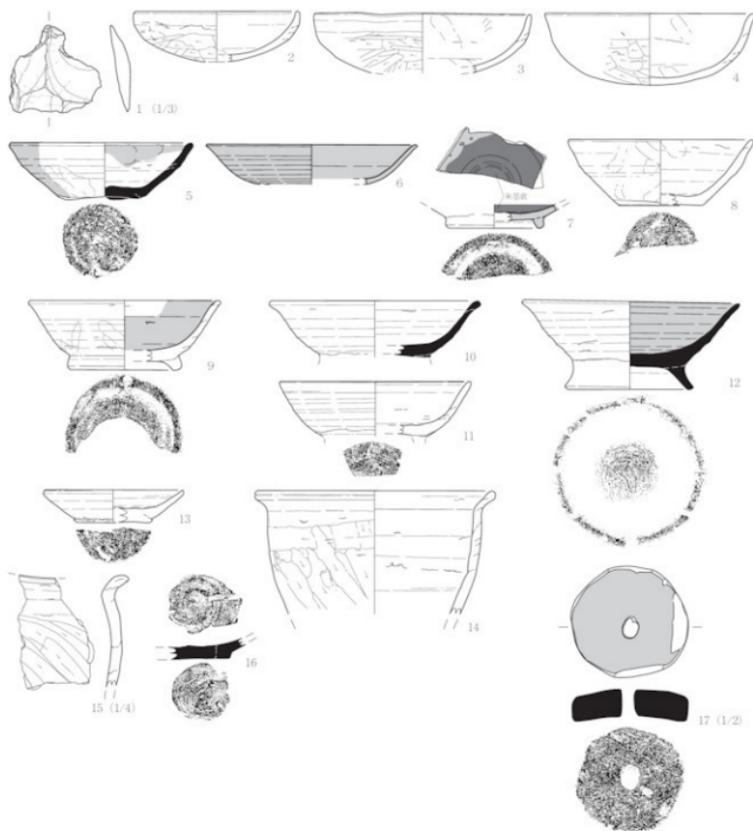


Fig29 A区道溝外出土遺物





No	出土位置	種別・番付	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
8	No.1	常呂宮 高砂内	111	70	58	石質	焼成	色調	10.6	器形、成・整形、文様等の特徴	7.5程度
9	No.1	常呂宮 高砂内	111	70	53	石質	焼成	色調	10.6	器形、成・整形、文様等の特徴	7.5程度

H-21

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.1	常呂宮 高砂内	110	130	52	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	2.5程度

H-23

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.1	常呂宮 高砂内	131	46	32	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.4程度
2	No.6	常呂宮 高砂内	112	51	44	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度以下程度

H-24

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.2	上原宮 高砂内	100	51	114	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度以下程度

H-25

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.1	常呂宮 高砂内	110	51	53	胎土不明	中焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	2.1程度
2	No.4	常呂宮 高砂内	138	63	49	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度

H-26

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.22	常呂宮 高砂内	110	52	48	胎土不明	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度
2	No.24	常呂宮 高砂内	58	56	121	胎土不明	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度
3	No.28	常呂宮 高砂内	116	52	32	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.4程度
4	No.1-9	常呂宮	100	51	112	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度
5	No.6-8	常呂宮	100	51	108	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度
6	No.18	常呂宮	113	51	101	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度

No	出土位置	種別・番付	直径	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
7	No.18	常呂宮 高砂内	113	51	101	石質	焼成	4.6	器形、成・整形、文様等の特徴	0.4程度

No	出土位置	種別・番付	直径	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
8	No.22	常呂宮 高砂内	205	20	66	胎土不明	中焼	3.0	器形、成・整形、文様等の特徴	0.5程度
9	No.27	石巻宮	139	114	44	胎土不明	中焼	3.0	器形、成・整形、文様等の特徴	0.5程度

H-27

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.1	常呂宮 高砂内	110	56	37	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.4程度
2	No.3	常呂宮 高砂内	116	74	51	白・黄・赤褐色	中焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度

H-28

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.2	常呂宮 高砂内	123	63	41	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
2	No.3	常呂宮	100	51	112	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	1.0程度

H-29

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.1	上原宮 高砂内	110	46	32	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
2	No.2	上原宮 高砂内	121	46	33	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
3	No.8	上原宮 高砂内	127	46	42	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
4	No.9	上原宮 高砂内	117	46	33	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
5	No.3	上原宮 高砂内	100	51	108	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
6	No.11	上原宮 高砂内	110	51	107	白・黄・赤褐色	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度

No	出土位置	種別・番付	直径	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
7	No.4	上原宮 高砂内	100	49	61	胎土不明	中焼	3.0	器形、成・整形、文様等の特徴 <td>0.5程度</td>	0.5程度

H-30

No	出土位置	種別・番付	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.7-9	常呂宮 高砂内	110	51	31	胎土不明	中焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
2	No.1	常呂宮 高砂内	110	43	41	白・黄・赤褐色	中々焼成	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
3	No.1	常呂宮 高砂内	100	19	66	胎土不明	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度
4	No.6	上原宮 高砂内	119	68	59	胎土不明	中焼	茶褐色	10.6	内面に黒線文が施されている。底面には黒線文が施されている。	0.5程度



2 B区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 30～32・36, PL. 10・16)

位置 X 87～90, Y 236～239 主軸方向 N-70°-E 規模 東西軸 9.73 m、南北軸 9.98 m、壁現高 0.42 m。

面積 83.27 m² 床面 平坦で硬化が弱い。重複 W-3・4、D-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-4、D-1→W-3である。カマド 東壁やや南寄りに1基検出。確認長 1.89 m、燃焼部幅 0.69 m。天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右側(南)が0.57 m、左側(北)が0.64 m、煙道は壁外に0.87 m突出している。両袖の構築部材として、面取りされた砂岩が1対出土している。さらに焚口側には、石材の抜き取り痕と考えられるピット状の掘り込みが右袖に2基、左袖に1基検出した。掘り方は煙道部のみを住居外へ掘り進め、住居壁面を境として内側に燃焼部および袖を構築している。カマド崩落土は床面南方向に堆積しているが、焼土および灰層の混入は少ない。貯蔵穴 南側P 1・2の間に長軸 3.11 m、短軸 1.63 m、深さ 0.23 mの開口が広く浅い掘り込みが確認された。貯蔵穴かは不明であるが、周囲の貼床面が掘り込み内部にまで及んでいることから、何らかの住居内施設であると考えられる。柱穴 床面において主柱穴と想定されるP 1～4が検出された。規模(長軸×短軸×深さ)はP 1が0.97 m×0.88 m×0.65 m、P 2が0.92 m×0.84 m×0.65 m、P 3が0.70 m×0.68 m×0.61 m、P 4が0.79 m×0.71 m×0.66 mである。掘り方 黄色砂粒を少量、AsC軽石を微量含む黒褐色土により構築されている。住居中央部では北西から南東方向へ鉄製器具(鋤)による掘削痕が筋掘り状に約11条検出されている。出土遺物 覆土より須恵器坏蓋(1～3)、須恵器内面碗(4)、須恵器長頸瓶(5・6)、須恵器短頸壺(7)、須恵器高台付坏(8・9・13)、須恵器坏(10～12)、須恵器盤(14)土師器鉢(15～17)、土師器坏(18～25)、床面直上より棒状鉄製品(26)、こも編石(27)が出土している。備考 壁際を中心とした堆積土層(住居断面6層)に、直径3～10 cm程度のHr-FAブロックがやや多く混入している。床面から間層を挟んでの堆積であるため、埋没過剰に他から流入したものであろう。住居の規模に対して、床面硬化が弱く、住居内施設が貧弱で床面直上の遺物は少ない一方で、覆土遺物は破片数で1466点と極めて多く、重量比で70.5%を須恵器が占める。時期 出土遺物の傾向から7世紀末～8世紀初頭と想定される。

H-2号住居跡 (Fig. 33・36・37, PL. 10・11・16)

位置 X 86・87, Y 235 主軸方向 N-73°-E 規模 東西軸(3.62) m、南北軸(2.92) m、壁現高 0.51 m。調査区北壁において南半のみ検出であり、北半は調査区外となる。面積(6.64) m² 床面 やや凹凸があり、締まりが強い。重複 H-3と重複し、新旧関係は本遺構→H-3である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長 1.24 m、燃焼部幅 0.41 m、袖の残存長は右側(南)が0.45 m、左側(北)が0.43 m、煙道は壁外に0.50 m突出している。両袖の構築部材として、砂岩が1対出土している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを微量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 須恵器坏蓋(1)、須恵器長頸壺(2)、土師器坏(3～9)、土師器甕(10)、砥石(11)、こも編石(12～15)が出土している。1～8・10～15が床面直上、9が覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から7世紀後半と想定される。

H-3号住居跡 (Fig. 33・37, PL. 11・16)

位置 X 87・88, Y 235 主軸方向 N-79°-E 規模 東西軸(3.48) m、南北軸(2.19) m、壁現高 0.43 m。調査区北壁において南半のみ検出であるが、南側の大半も擾乱により削平されているため、カマドから調査区壁付近と西端部のみ検出となっている。面積(1.93) m² 床面 平坦で締まりが強い。重複 H-2と重複し、新旧関係はH-2→本遺構である。カマド 東壁に1基検出。確認長 1.16 m、燃焼部幅 0.31 m、煙道は壁外に0.81 m突出している。右袖(南側)の構築部材として、砂岩が1点出土している。貯蔵穴 検出さ



れず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 床面直上より土師器環(1~3)、こも編石(4~7)が出土している。2・4~7は住居南西隅床面に並んだ状態で確認されている。時期 出土遺物の傾向から8世紀前半と想定される。

H-4号住居跡 (Fig.34・37, PL.11・16)

位置 X 90, Y 235・236 主軸方向 N-4°-W 規模 東西軸(1.39)m、南北軸(4.50)m、壁現高0.26m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。面積 (3.84)㎡ 床面 平坦で締まりの強い地山硬化床。重複 無し。カマド 検出されず。貯蔵穴 住居南西側に1基検出。長軸0.63m、短軸0.54m。深さ0.44mを測り、断面箱状で上部は台形状に開く。柱穴 北側に1基検出。長軸(0.64)m、短軸(0.08)m、深さ(0.21)mを測るが、調査区壁際での検出であり、大半は調査区外となる。掘り方 大半は地山を直接床面としているが、細かい凹面に黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 北西壁際から土師器環(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から11世紀前半と想定される。

H-5号住居跡 (Fig.35・37, PL.11・16)

位置 X 89・90, Y 238~240 主軸方向 N-100°-E 規模 東西軸3.12m、南北軸4.55m、壁現高0.17m。面積 (11.06)㎡ 床面 やや凹凸があり、締まりが強い。重複 H-6と重複し、新旧関係はH-6→本遺構である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.94m、燃焼部幅0.72m、天井部は完全に崩落しており、覆土中から構築部材と考えられる面取りされた砂岩が倒れた状態で出土している。煙道は壁外に0.52m突出している。貯蔵穴 南東隅に1基検出。長軸0.58m×短軸0.54m、深さ0.12mを測り、断面弧状を呈する。

柱穴 南側と北西隅から、ピット状の浅い掘り込みを計2基検出。南側(P1)は長軸0.37m、短軸0.34m、深さ0.25、北西隅(P2)は長軸0.30m、短軸0.30m、深さ0.15m、覆土中には炭化物が多く混入し、底面は硬く締まる。掘り方 AsC軽石粒と黄色砂粒を微量含む暗褐色土により構築される。出土遺物 須恵器環(1~3)、須恵器高台付環(4~6)、土師器甕(7)、土師器台付甕(8)、こも編石(9・10)が出土している。1・2・4・8~10が床面直上、3・6がカマド、5・7が貯蔵穴付近からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-6号住居跡 (Fig.34・38, PL.11)

位置 X 89・90, Y 238・239 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸(1.68)m、南北軸(2.34)m、壁現高0.14m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。面積 (2.85)㎡ 床面 やや締まりが強い。重複 H-5と重複し、新旧関係は本遺構→H-5である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒をやや多く、AsC軽石粒を微量含む黒褐色土により構築される。出土遺物 床面直上より土師器環(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から7世紀前半と想定される。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.35, PL.11・12)

位置 X 87~90, Y 241・242 主軸方向 N-84°-E 規模 長さ(11.52)m、上幅(2.83)m、下幅(0.60)m、深さ(1.36)m。形状等 東西方向に走向する。南側の立ち上がりは調査区外になり不明ではあるが、断面形状は台形状を呈すると思われる。出土遺物 なし 時期 蒼海城の堀跡の一部と考えられ、15世紀後半から17世紀前半と想定される。備考 調査区南端の検出で道路際であるため、安全を考慮としてトレンチ調査とした。なお、検出位置、走向方向及び山崎氏の縄張り図から「元総社蒼海遺跡群(38)」J8区W-1号溝跡へ延びると想定される。





W-2号溝跡 (Fig.35, PL.12)

位置 X 87 ~ 90, Y 240・241 主軸方向 N-91°-E 規模 長さ(1278 m)、上幅1.98 m、下幅0.88 m、深さ0.57 m。形状等 東西方向に走向し、断面台形状を呈する。底面は弧状に下がっている。重複 W-3と重複し、新旧関係は本遺構→W-3である。出土遺物 須恵器、土師器が出土しているが、図示にはいならず。時期 W-1上層に堆積している砂質土と同質なものを覆土としていることから、W-1より新しいと考える。備考 試掘トレンチから東側調査区壁の溝上部は重機により削平されている。

W-3号溝跡 (Fig.35・38)

位置 X 90, Y 237 ~ 240 主軸方向 N-1°-E 規模 長さ(12.53 m)、上幅0.82 m、下幅0.59 m、深さ0.11 m。形状等 南北方向に走向し、断面弧状を呈する。重複 H-1・5、W-2と重複し、本遺構が最も新しい。出土遺物 須恵器、土師器が少数出土しているが、図示にはいならず。時期 出土遺物は本遺構に付随するものではなく重複するH-1号住居跡からの混入と考えられる。また、覆土の堆積状況から判断すると、本調査区内で最も新しい以降であり、近世から近代のもの想定される。

W-4号溝跡 (Fig.35, PL.12・17)

位置 X 86 ~ 90, Y 236・237 主軸方向 N-90°-E 規模 長さ(15.54 m)、上幅1.51 m、下幅0.83 m、深さ0.56 m。形状等 東西方向に走向し、断面台形状を呈する。重複 H-1と重複し、新旧関係はH-1→本遺構である。出土遺物 須恵器、土師器、石製品が出土している。須恵器坏(1)、平瓦(2)、こも礫石(3)を図示する。時期 出土遺物は本遺構に付随するものではなく、重複関係から8世紀以降と考える。

備考 本遺構に関連すると思われるピットが19基検出され、南壁面に集中する傾向がある。規模は長軸0.21 m ~ 0.46 m、短軸0.19 m ~ 0.34 m、深さは0.10 m ~ 0.45 mである。中央から東側調査区壁の溝上部は攪乱により削平されている。

(3) 土坑 (Fig.32)

B区では土坑1基を確認している。各計測値については「Tab. 4 B区土坑計測表」を参照のこと。

Tab. 4 B区土坑計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	平面形状
D-1	X.86, Y.237	2.01	2.20	0.55	不規則



H-1床面

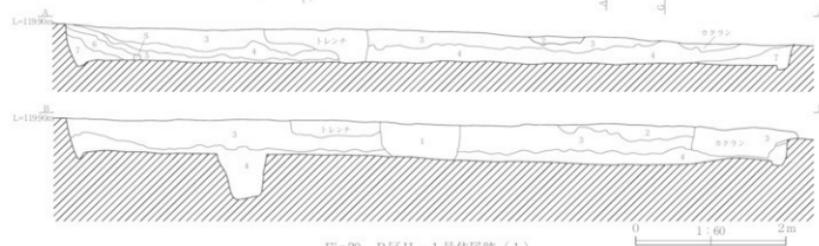
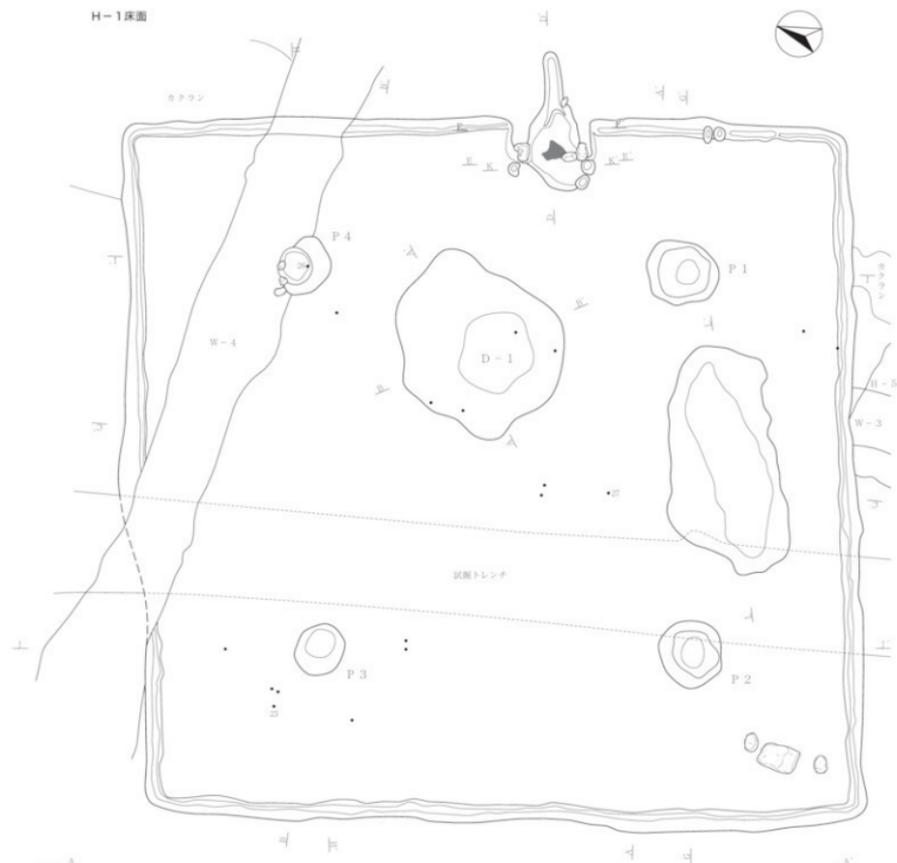


Fig.30 B区H-1号住居跡(1)





H-1掘り方

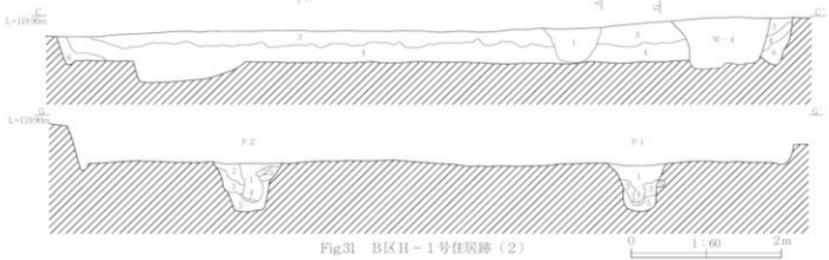
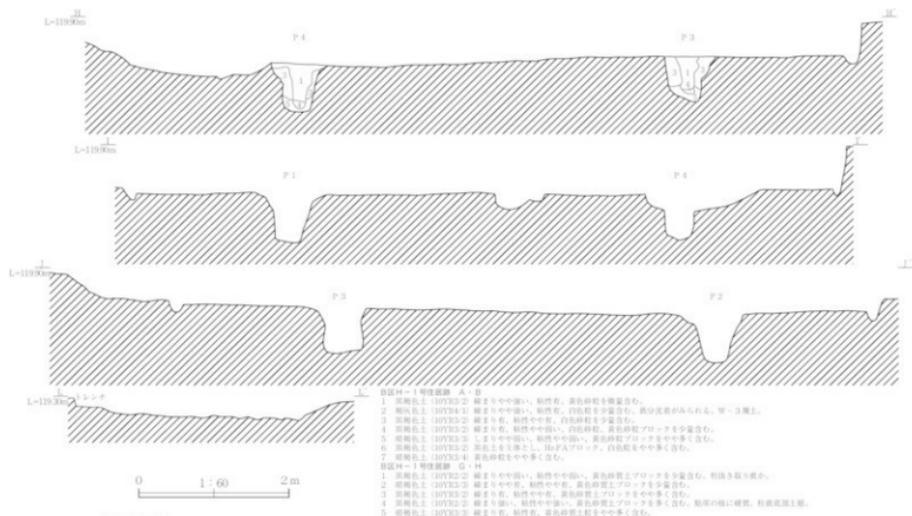
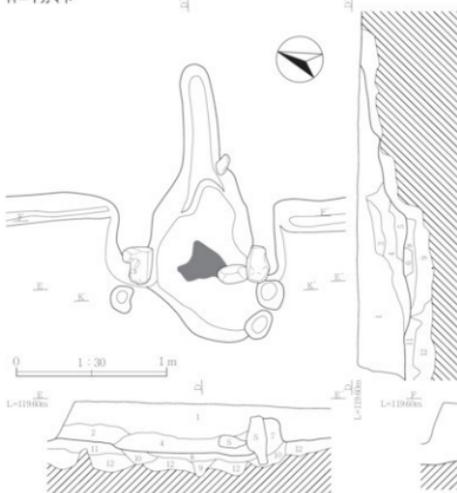


Fig.31 B区H-1号住居跡(2)

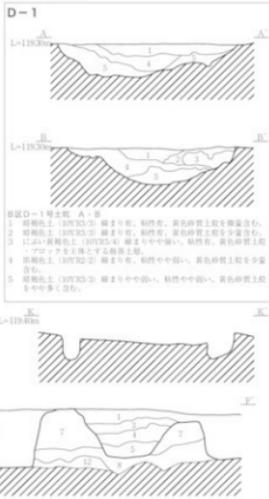


H-1カマド



目録H-1号住居跡 A-D、G、H

- 1 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强、自然砂粒を少量含む。黄砂混入が顕著な層を含む。
- 2 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 3 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强や強い、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 4 表層土 (10YR2/1) 締まりや強い、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 5 表層土 (10YR2/1) 締まりや強い、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 6 土間-表層土 (10YR2/4) 締まりや強い、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。



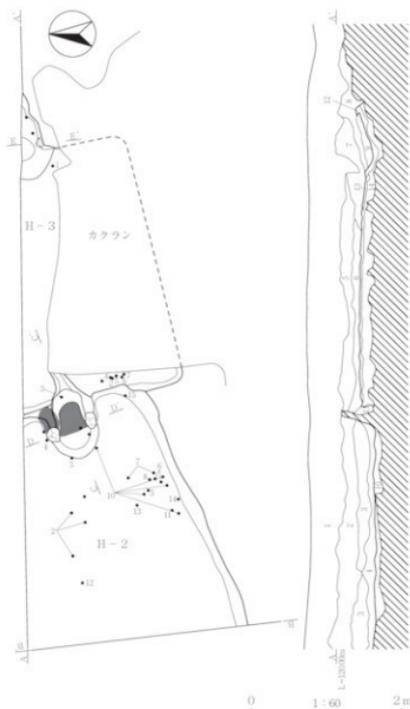
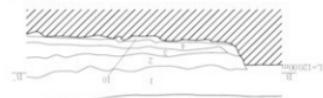
目録D-1号住居跡 A-G

- 7 表層土 (10YR2/2) 締まりや強い、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 8 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 9 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 10 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强や強い、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 11 表層土 (10YR2/2) 締まりや、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。
- 12 表層土 (10YR2/4) 締まりや、粘性强、黄砂混入が顕著な層を含む。

Fig.32 B区H-1号住居跡(3)、D-1号土坑



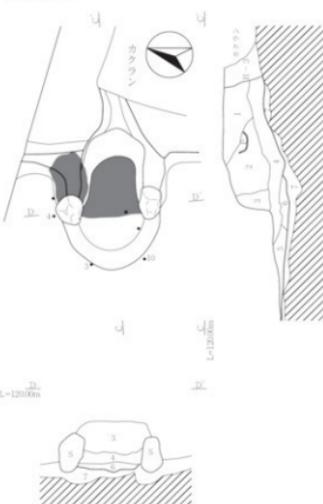
H-2・3



B区H-2・3号住居跡 A・B・E

- 1 築地土 (3VY21) 築まり方、粘性有、黄灰色中砂、灰土層。
- 2 築地土 (3VY22) 築まり方中砂、粘性中中、灰土層。表面3~10mm程度の小石と黄灰色砂を少量、白砂を少量含む。
- 3 築地土 (3VY23) 築まり方中砂、粘性中中、表面3~10mm程度の小石を中々多く、礎土層を薄量含む。
- 4 築地土 (3VY23) 築まり方、粘性有、黄灰色砂アロツクを中々多く含む。
- 5 築地土 (3VY23) 築まり方、粘性有、白砂を少量、礎土層を薄量含む。
- 6 築地土 (3VY23) 築まり方、粘性有、白砂中中、灰土層を中々多く含む。
- 7 築地土 (3VY23) 築まり方中砂、粘性有、礎土アロツクを中々多く含む。
- 8 築地土 (3VY24) 築まり方、粘性有、中アツク程度の礎土アロツクを中々多く含む。礎土アロツク、灰土少量含む。
- 9 築地土 (3VY25) 築まり方、粘性強い、灰土層なし、礎土アロツク少量含む。
- 10 築地土 (3VY25) 築まり方中砂、粘性有、黄灰色砂アロツクを多く含む。中砂、粘性弱。
- 11 築地土 (3VY25) 築まり方、粘性中中、粘性中中、黄灰色砂少量含む。
- 12 築地土 (3VY25) 築まり方中砂、粘性中中、灰土層なし、礎土アロツク、礎土を薄量含む。中アツク層。
- 13 築地土 (3VY25) 築まり方、粘性強い、白砂中、黄灰色砂少量含む。礎土を少量含む。
- 14 築地土 (3VY25) 築まり方、粘性有、黄灰色砂、アロツクを中々多く含む。灰土層。

H-2カマド



B区H-2号住居跡カマドC・D

- 1 ニムノ層築地土 (3VY24) 築まり方中砂、粘性有、白砂を少量含む。
- 2 築地土 (3VY25) 築まり方中砂、粘性強い、礎土アロツク、白砂を中々多く含む。
- 3 築地土 (3VY25) 築まり方、粘性有、白砂を少量アロツク、礎土アロツクを中々多く含む。
- 4 ニムノ層築地土 (3VY25) 築まり方、粘性中中、礎土層を多く、礎土アロツク、灰土少量含む。
- 5 ニムノ層築地土 (3VY25) 築まり方、粘性中中、礎土層を多く、礎土アロツク、灰土少量含む。
- 6 築地土 (3VY25) 築まり方、粘性中中、灰土層を多く含む。
- 7 築地土 (3VY25) 築まり方中砂、粘性中中、黄灰色砂を中々多く含む。

H-3カマド

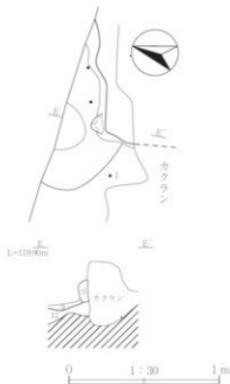


Fig.33 B区H-2・3号住居跡

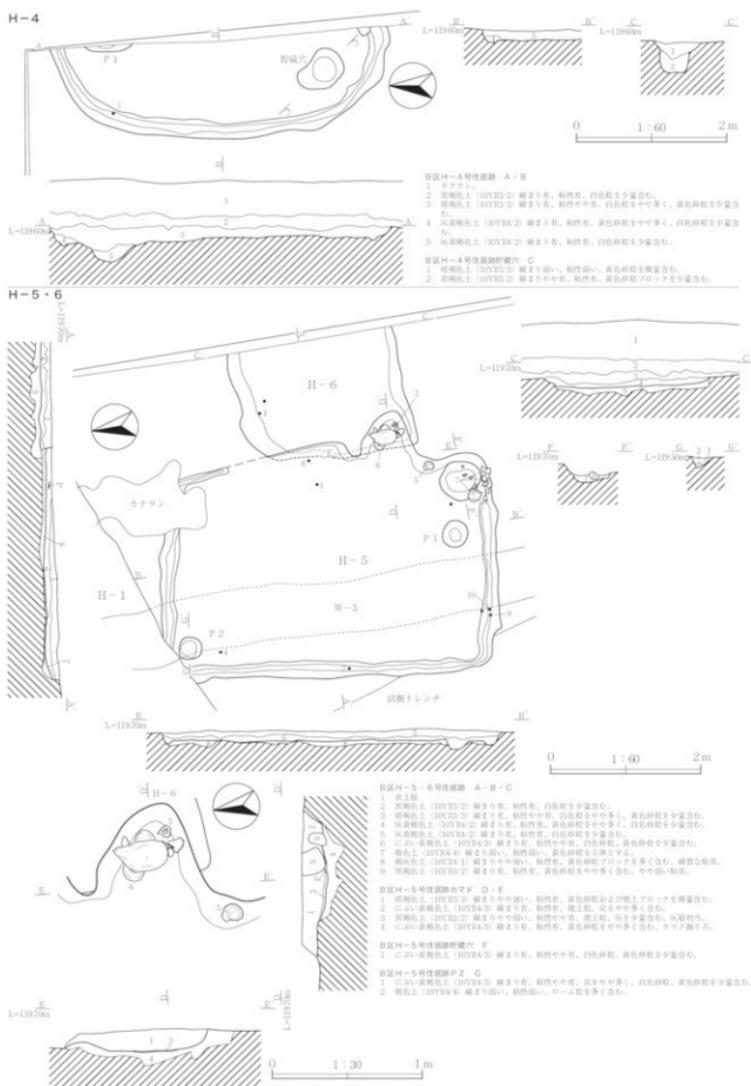
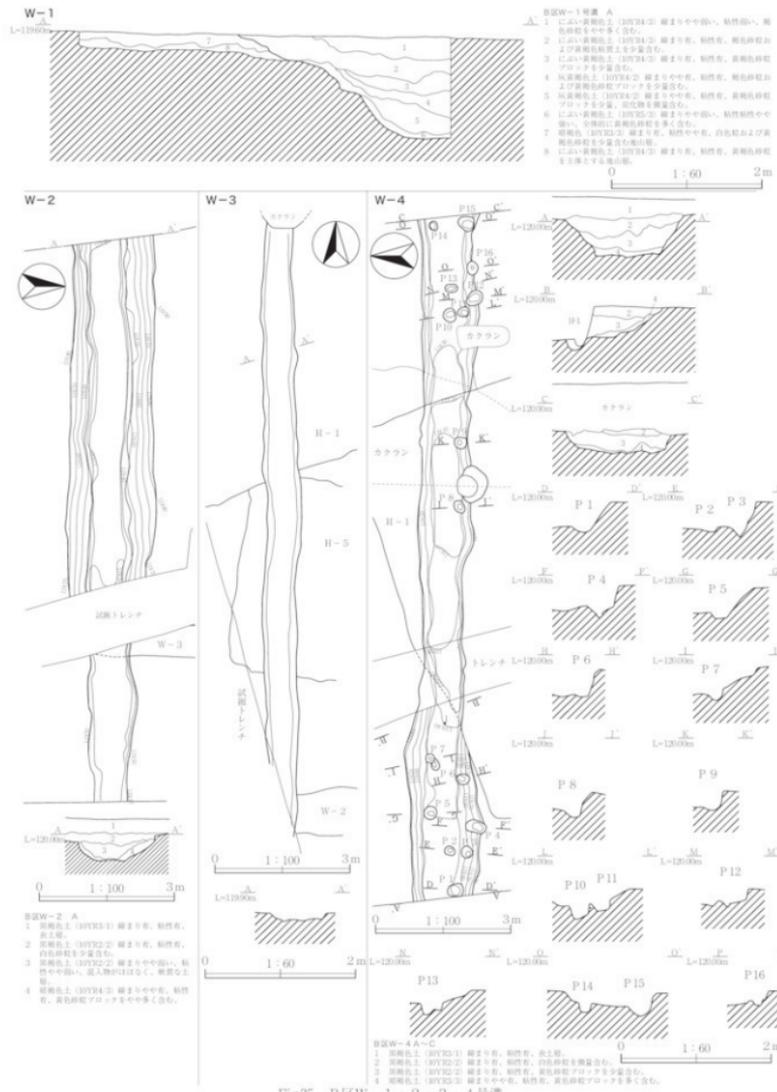


Fig.34 B区H-4・5・6号住居跡



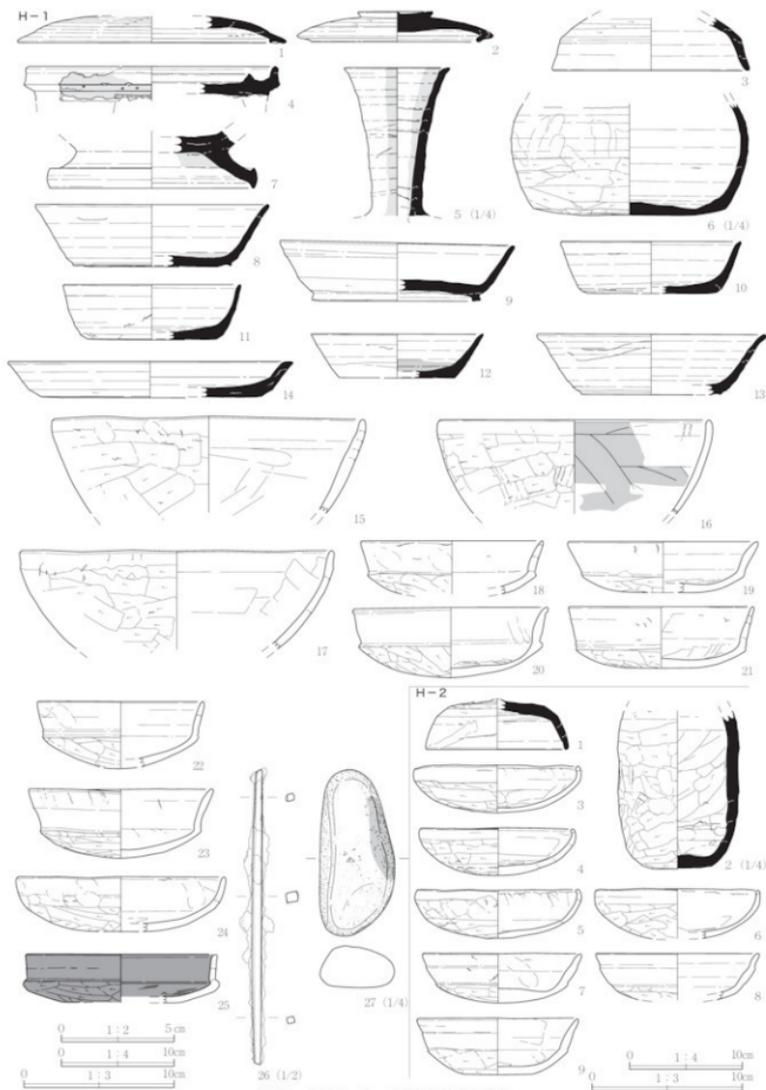
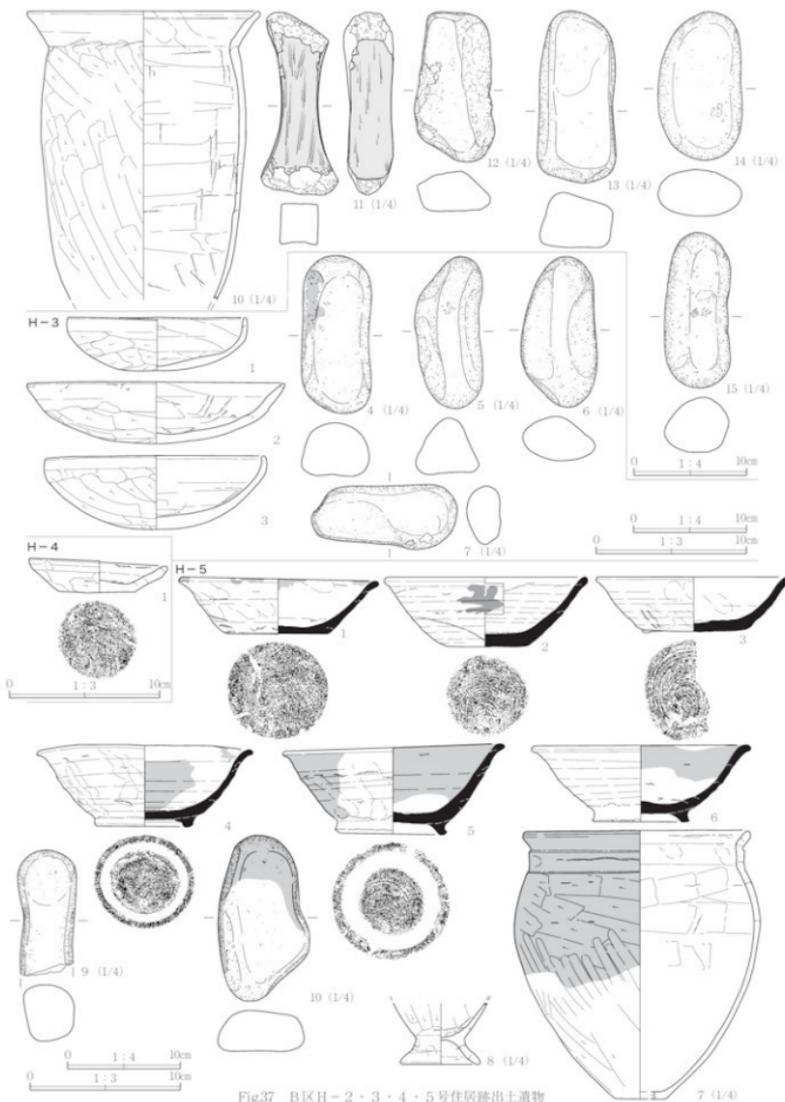


Fig.36 B区H-1·2号住居跡出土遺物





3 C区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.39~42, PL.12・13・17)

位置 X 89・90, Y 246・247 主軸方向 N-88°-E 規模 東西軸 5.32 m、南北軸 5.26 m、壁現高 0.26 m。上層からの擾乱が全体的に入っており、確認面は床面近くとなった。面積 16.77 m² 床面 やや凹凸があり、締まりは強い。重複 H-2・4、W-1と重複し、新旧関係はW-1→H-4→H-2→本遺構である。

カマド 東壁に1基検出。確認面が床面近くであったため、煙道等の構築は不明。焼土層と白色灰が堆積した、長軸 0.87 m、短軸 0.63 m、深さ 0.15 mの燃焼部と想定される浅い掘り込みを確認したのみである。貯蔵穴 検出されず。柱穴 中央北西寄りに検出。長軸 0.57 m、短軸 0.56 m、深さ 0.35 mを測り、楕円形を呈する。掘り方 黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土により構築される。出土遺物 床面直上から、灰釉陶器壺(1・3)、灰釉陶器折縁皿(2)、須恵器高台付坏(4~13)、須恵器坏(14・15)土師質高台付坏(16・17)、土師器坏(18)、羽釜(19)、土師器甕(20・21)、鉄製鎌(22)、こも編土(23)が出土している。17・18はやや新相を示す。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-2号住居跡 (Fig.39・40・42, PL.13・17)

位置 X 89・90, Y 247・248 主軸方向 N-89°-E 規模 東西軸 4.68 m、南北軸 (1.94) m、壁現高 0.43 m。調査区南壁において北半のみ検出であり、南半は調査区外となる。面積 (5.09) m² 床面 平坦で締まりは強い。重複 H-1・4、W-1と重複し、新旧関係はW-1→H-4→本遺構→H-1である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 浅い凹凸面に黄色砂粒を微量含む黒褐色土を充填して構築される。出土遺物 床面直上から、底部外面に「大□」と墨書された灰釉陶器壺(1)、土師器坏(2・3)、土師器甕(4)が出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-3号住居跡 (Fig.39・40・42, PL.13・17)

位置 X 90, Y 246・247 主軸方向 N-72°-E 規模 東西軸 (1.60) m、南北軸 (3.71) m、壁現高 0.55 m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。面積 (3.40) m² 床面 平坦な地山硬化床。重複 W-1と重複し、新旧関係はW-1→本遺構となる。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。出土遺物 土師器坏(1)、土師器甕(2)こも編土(3)が出土している。1は床面直上、2・3は覆土である。時期 出土遺物の傾向から8世紀前半と想定される。

H-4号住居跡 (Fig.39・40・42, PL.13・17)

位置 X 88・89, Y 247・248 主軸方向 N-86°-E 規模 東西軸 (2.07) m、南北軸 (3.50) m、壁現高 0.30 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西および南側は調査区外となる。面積 (6.15) m² 床面 やや凹凸があり、締まりは弱い。重複 H-1・2、W-1と重複し、新旧関係はW-1→本遺構→H-1である。カマド 東壁に1基検出、南半は調査区外となる。確認長(1.08)m、燃焼部幅(0.18)m、煙道は壁外に0.66m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂屑を地山として、凹凸面に黒褐色土を充填して構築される。出土遺物 床面直上より土師器坏(1・2)、土師器甕(3)、土師器甕(4)が出土している。時期 出土遺物の傾向から8世紀前半と想定される。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.40・42, PL.13・17)

位置 X 88~90, Y 246~248 主軸方向 N-71°-E 規模 長さ(8.55m)、上幅2.02m、下幅1.13m、



深さ0.74 m。形状 東西方向へ走向し、断面台形状を呈する。重複 H-1・3・4と重複し、新旧関係は本遺構→H-3・4→H-1である。出土遺物 須恵器、土師器を出土し、土師器2点を図示する。時期 出土遺物から7世紀後半から8世紀初頭であり、重複関係からは8世紀半ばまでには埋没したと想定される。

備考 通水の痕跡は認められない。溝底面から立ち上がり箇所にかけて反復した凹凸面があり、主軸方向に約1.10 mの間隔で掘削単位を持つことを確認された。

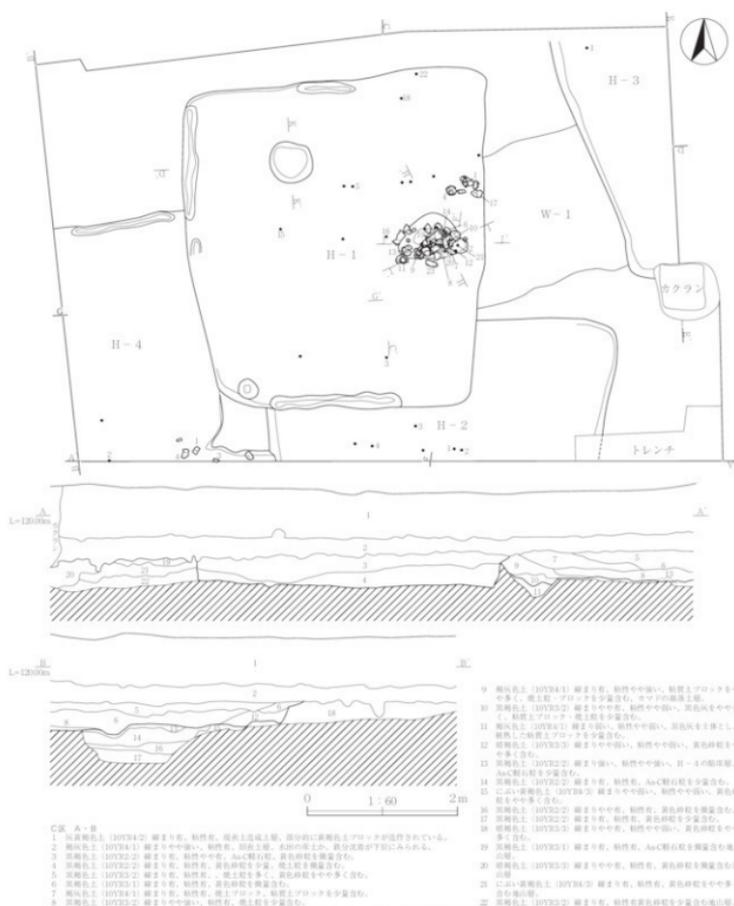
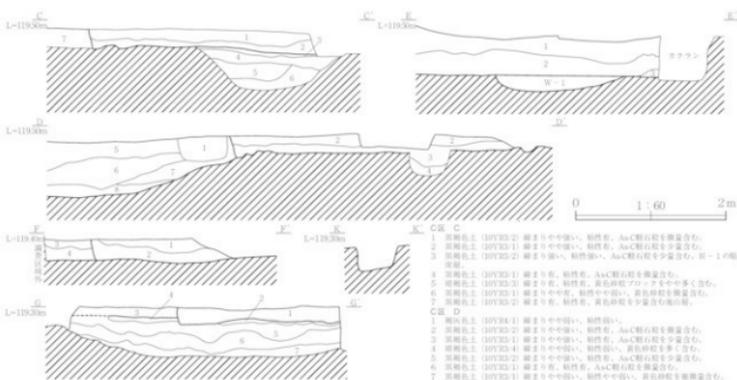
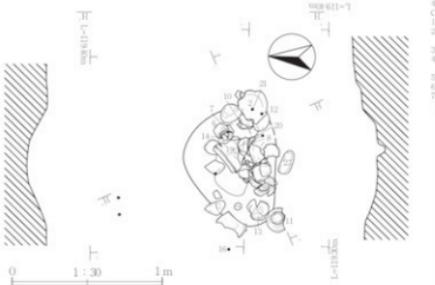


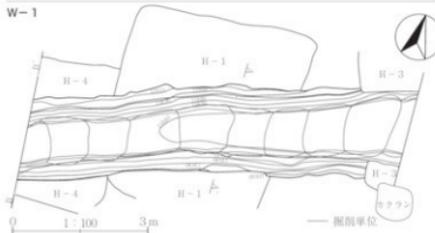
Fig.39 C区H-1・2・3号住居跡(1)



H-1カマド



W-1



C区W-1号溝 A

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。H-1の焼痕層。
- 4 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 5 暗褐色土 (10YR2/3) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 7 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 8 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。

C区 D

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。

C区 E

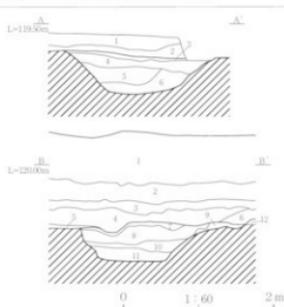
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 2 暗褐色土 (10YR2/3) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/4) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。

C区 F

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。

C区 G

- 1 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。H-1の焼痕層。
- 3 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、AaC顆石を少量含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 7 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。



C区W-1号溝 B

- 1 灰褐色土 (10YR4/2) 締まりや中強い、粘り有、珪土を少量含む。部分的に黒褐色土700 μ mの焼痕層を多く含む。
- 2 暗褐色土 (10YR4/1) 締まりや中強い、粘り有、珪土を少量含む。部分的に黒褐色土700 μ mの焼痕層を多く含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、珪土を少量含む。黄色粘アツクを多く含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/1) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、珪土を少量含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。
- 7 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、珪土を少量含む。H-1の焼痕層。AaC顆石を少量含む。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、珪土を少量含む。
- 9 C-1の焼痕層土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。
- 10 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 11 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを少量含む。
- 12 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりや中強い、粘り有、黄色粘アツクを多く含む。

Fig.40 C区H-1・2・3号住居跡(2)、W-1号溝

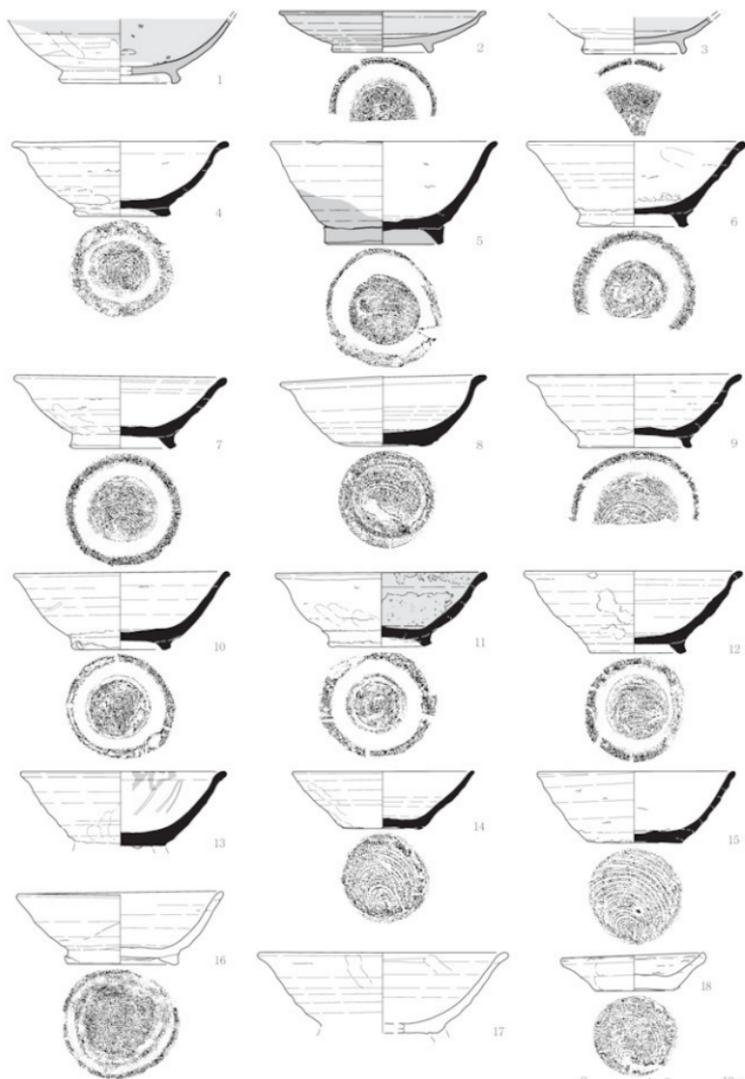


Fig.41 C区H-1号住居跡出土遺物

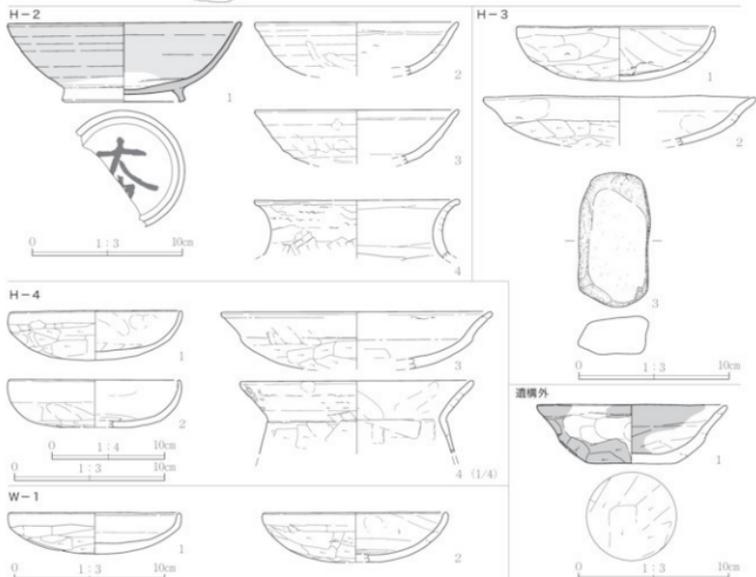
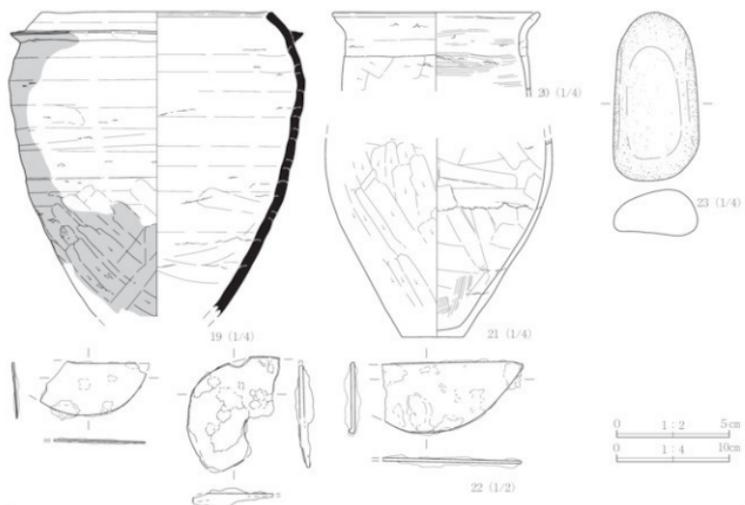


Fig.42 C区H-1・2・3・4号住居跡、W-1号溝、遺構外出土遺物



VI 発掘調査の成果と課題

今回の元総社蒼海遺跡群(60)の調査では、堅穴住居跡44軒、溝跡6条(うち堀跡1条)、井戸跡3基、土坑39基、ピット18基を検出した。個別遺構の詳細については前章に記したが、ここでは集落の動向を従来の編年観に基づいて若干の考察を加え、まとめたい。

1 集落の変遷

6世紀後半の住居跡はA区H-5号住居跡である。出土遺物は所謂、模倣坏で体部は丸みを帯び、中位の稜からやや直立気味の口縁部へと至り、口端部は外反するものと、中位の明確な稜から、口縁部は外反するものがある。両方とも内外面に漆が塗布されている。1軒のみの検出であり、集落としての詳細は不明である。7世紀の住居跡はA区H-1・34、B区H-2・6号住居跡の計4軒が検出された。出土遺物から判断すると、7世紀後半が主体となり、散発的な検出状況となっている。

7世紀末から8世紀初頭にかけての住居跡はA区H-16・18・29・31号住居跡、B区H-1号住居跡の計5軒が検出された。A区南半からB区中央にかけての検出であり、まとまった集落展開がなされていたことが想定される。一辺10m近い大型住居であるB区H-1号住居跡は、突出した住居規模と須恵器を主体とした遺物構成の一方で、住居内施設の貧弱さと覆土中位からのまとまった遺物出土状況からは、通常の当該期の住居とは違う、やや特異なものを感じさせる。元総社蒼海地区内の発掘調査において類似する大型住居として、蒼海(43)H-1号がある。規模は長軸9.20m、短軸8.60mで、遺物は須恵器が多く、盤や円面硯が出土する器種構成の多様さは本遺構と共通するものであり、時期も8世紀前半から中葉と連続性を窺わせる。

8世紀の住居跡はA区H-15・24号住居跡、B区H-3号住居跡、C区H-3・4号住居跡の計5軒が検出された。出土遺物から判断すると、8世紀前半が主体となり、立地は散発的な検出となっている。C区H-3・4号住居跡は共に8世紀前半であり、区画溝と考えられるW-1号溝は、それ以前には埋没していたと考えられる。9世紀の住居跡はA区H-2・21・25・33号住居跡、B区H-5号住居跡、C区H-2号住居跡の計6軒が検出された。すべてが9世紀後半の住居である。10世紀の住居跡はA区H-8・10・12・14・17・22・23・26・28・30・32号住居跡、C区H-1号住居跡の計14軒が検出された。9世紀後半から10世紀初葉は最も集落が展開する時期であり、重複関係や遺物の時期からも連綿と集落が営まれていたことが想像できる。11世紀の住居跡はA区H-6・7・9・11・

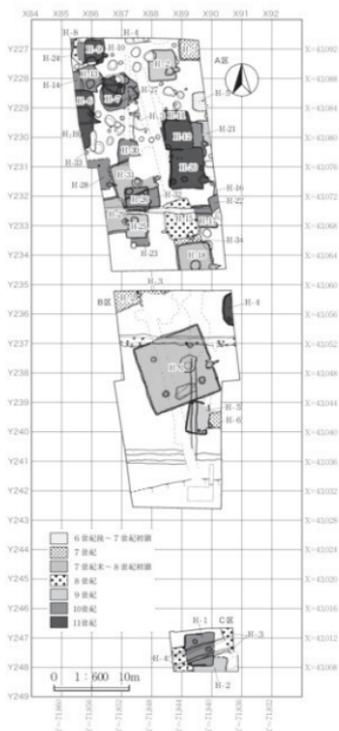


Fig.43 集落の変遷



19・20号住居跡、B区H-4号住居跡の計7軒が検出された。重複関係により新旧が区分でき、H-19よりH-6、H-11よりH-20が新相を示す。H-9号住居跡出土の灰軸陶器皿は口径が11cmと小型で、高台は小さく、断面は丸みを帯びた三角形となっており、丸石2号窯式の様相を呈する。土師質の坏はいずれも「かわらけ状の坏」で、器高と口径の比率を住居の重複関係で追った場合は、新しくなるにつれ小型化する傾向が窺える。A区H-6号住居跡は床面から10～15cmの間層を挟んで、天仁元年(1108)に降下したAs-B軽石一次堆積層が覆土中に確認されている。本遺跡の南方に位置する鳥羽遺跡SK-332土坑では、底面から15～20cmの間層を挟んで軽石層が検出しており、出土した皿状土器は口径8cm、器高1.5cm以下の斉一性が認められ、12世紀第1四半期と考えられている。この遺物から遡る鳥羽第25段階(11世紀第4四半期)は口径8～10cm、器高はすべて2cm以内に収まり、11世紀第4四半期を想定している。この口径・法量の小型化は、古代末期の坏(皿形土器)の変遷として捉えられており、その形態的变化を考慮すると、H-6号住居跡は11世紀中葉と考えられる。

しかしながら、軽石層の検出が住居跡や出土遺物の時期認定の根拠となる一方で、高崎市箕郷町の生原・天神前遺跡では10世紀後半の住居跡において、床面から約30cmの覆土上層に軽石層を検出し、前橋市の上原原遺跡では、8世紀台の住居床面から約20cmに、軽石層がレンズ状に堆積している。いずれもAs-B軽石一次堆積層を覆土に含む住居跡であるが、立地や環境による埋没速度の時間差を考慮する必要がある。

2 鍛冶関連遺構について

A区H-11号住居跡は、H-20号住居跡との重複や擾乱により判然としないが、残存している床面範囲から長軸7m以上と想定される。東壁中央付近床面の焼土域に、長軸0.79m、短軸0.35m、2cm程の窪みをもつ如様施設、住居内西側の土坑は覆土に焼土や灰ブロックを含み、壁面上部に焼土化が認められる。鍛造剥片などは検出されなかったが、覆土中には大きさが手のひら大の椀形鍛冶滓が出土している。なお、出土物の中には床面直上で鉄製鐔、刀子が出土している。如様施設は焼土域の範囲や椀形鍛冶滓を考慮すると小型鍛冶炉であると考えられる。より詳細に椀形鍛冶滓を観察すると、下面は発泡しており、磁着は認められない。上手側には知底部の胎土が付着、下手側は一段下がった部分に植物繊維痕が確認できることから、炉壁との接地面と思われる。上面は鍛造剥片の付着は認められない。下手側から中央部にかけて薄い流動状の滓に覆われており、この部分には磁着は認められない。右側面に破面が認められるがほぼ完形である。上面の状態から鍛冶の工程として焼き入れ・焼きなましを想定できるが、正確な結果を得るには分析が必要である。また、H-11号住居跡は小型鍛冶炉を備えているが、床面や椀形鍛冶滓から鍛造剥片が検出されていないため、鍛錬以外の作業が行われたと考えられる。



Fig.44 元総社普海地区の鍛冶関連遺構



3 鉄製鐺について

A区H-11号住居跡から出土した、鉄製鐺について若干の考察を加えたい。この鉄製十字鐺は、縦幅5.5cm、横幅4.3cm、厚さ0.8cmで住居床面から約9cmの高さで出土した。破損部内外面には緑青が付着しているが、鐺本体は鉄地であることから、他の装具に銅が使用されていたか、あるいは鐺の作製時に付着したと考えられるが、判然としない。金銅製・銅製の十字鐺は鳥根馬場遺跡（10世紀後半～11世紀）や神奈川県真土六の城遺跡（11世紀前半）に出土例があるが、鉄製は東北地方、主に出羽から津軽にかけて分布している。時間的には9世紀後半から10世紀中葉の間に位置付けられ、東北北部における鉄生産の隆盛と重なるが、製作技法は金銅・銅製とは異なり、あくまで形態の模倣に留まっている¹⁾。本遺跡出土鐺の製作過程としては、棒状の鉄を曲げて内輪は下部（刃輪）で接合し、外輪は破損部の下側が接合部になると考えられ、さらに長方形部品を十字に配置して内外輪を繋いで鐺としている。これは金銅・銅製鐺と同一の製作技法であることから、形態模倣を主とした東北地方の鉄製鐺とは異なり、技法が伝播した状況下において、製作されたものと考えられる。

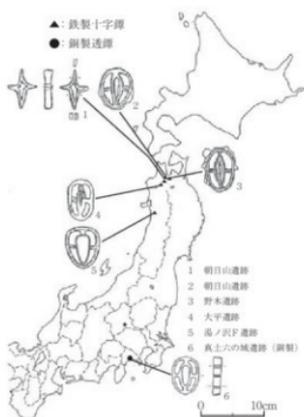


Fig.45 鉄製十字鐺の分布（津野 2008 より）

最後に当初の想定を大幅に上回る遺構・遺物数量となった今回の調査において、協力した下さったすべての方に謝意を記し、結びとしたい。

註

- (1) 群馬県教育委員会 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 1988 『鳥羽遺跡』1・J・K区本文編
- (2) 高崎市教育委員会 2010 『生原・天神前遺跡』
- (3) 群馬県教育委員会 1999 『上西原遺跡』
- (4) 津野 2008

参考文献

- 前橋市教育委員会 2005 『元総社小見内X』
 前橋市教育委員会 2008 『元総社青海道跡群 (13)』
 前橋市教育委員会 2013 『元総社青海道跡群 (40) (46) (49) (50)』
 高崎市教育委員会 2010 『生原・天神前遺跡』
 群馬県教育委員会 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 1988 『鳥羽遺跡』1・J・K区本文編
 群馬県教育委員会 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 1992 『上野園分霊寺・尼寺中間地域 (8)』第二編
 群馬県教育委員会 1999 『上西原遺跡』
 群馬県教育委員会 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2007 『南原岡遺跡』
 (注) 日本鋼鉄協会社会鉄鋼工学部会 2005 『鉄関連遺物の分析に関する研究会報告書 - 鉄関連遺物の発掘・整理から分析調査・保存まで』
 津野 仁 2008 『朝光の武具』『考古学研究』54巻4号 通巻216号 考古学研究会
 津野 仁 2010 『日本刀の成立過程 - 木柄刀と古代刀の変遷 - 』『考古学雑誌』第94巻第3号 日本考古学会
 津野 仁 2011 『日本古代の武具・武器と軍事』吉川弘文館



PL.1



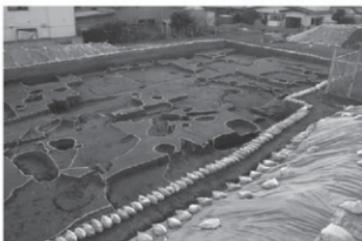
A区全景（南から）



A区全景（南東から）



A区北半全景（西から）



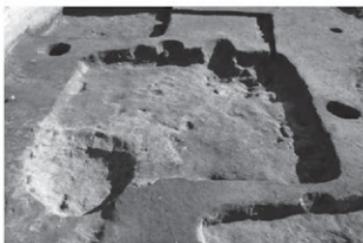
A区南半全景（北西から）



A区北半全景（南東から）



A区H-1全景（南から）



A区H-2全景（西から）

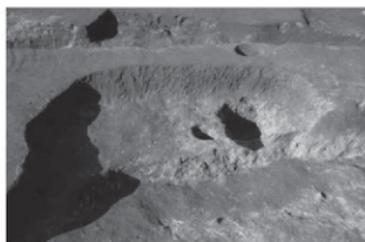


A区H-2カマド全景（西から）

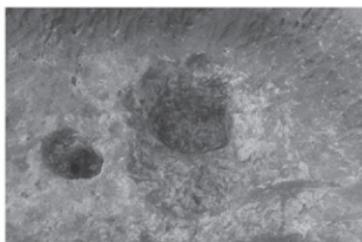




PL.2



A区H-3全景(東から)



A区H-3貯蔵穴全景(東から)



A区H-4全景(南から)



A区H-5全景(西から)



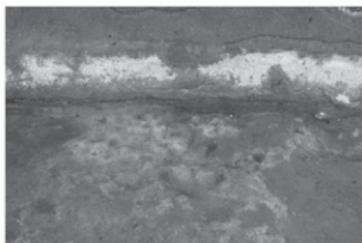
A区H-6全景(東から)



A区H-6 As-B軽石堆積状況(南から)



A区H-6 As-B軽石堆積状況(南東から)

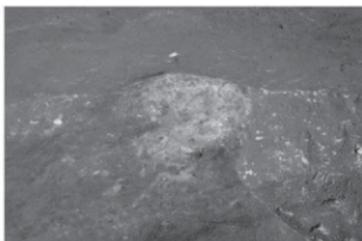


A区H-6 火床面検出状況(東から)





AKH-7 全景 (南から)



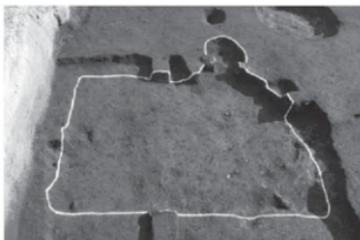
AKH-7 カマド全景 (南から)



AKH-8 全景 (南東から)



AKH-8 カマド断面 (南から)



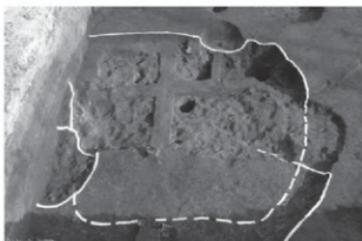
AKH-9 全景 (西から)



AKH-9 カマド遺物出土状況 (西から)



AKH-9 カマド全景 (西から)

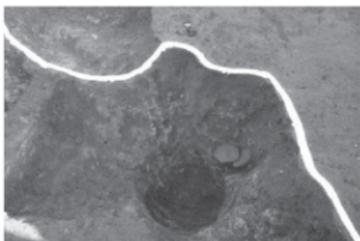


AKH-10 全景 (西から)





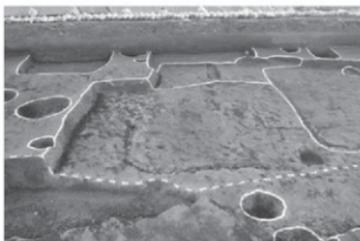
PL.4



A区H-10カマド全景（西から）



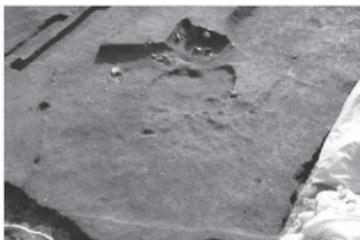
A区H-11・12・20全景（西から）



A区H-11・12全景（東から）



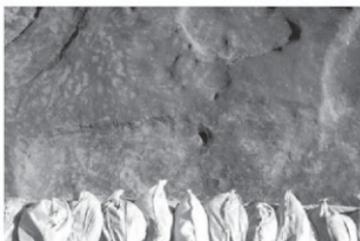
A区H-12カマド全景（西から）



A区H-13全景（北西から）



A区H-13カマド全景（北西から）



A区H-14全景（西から）



A区H-15全景（東から）





A区H-15カマド全景 (東から)



A区H-16カマド全景 (東から)



A区H-16カマド検出状況 (東から)



A区H-16カマド全景 (東から)



A区H-17カマド全景 (西から)



A区H-18カマド全景 (西から)



A区H-18カマド遺物出土状況 (西から)



A区H-18カマド全景 (西から)





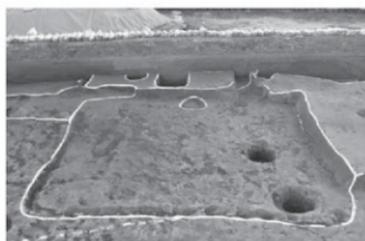
PL.6



A区H-19全景 (西から)



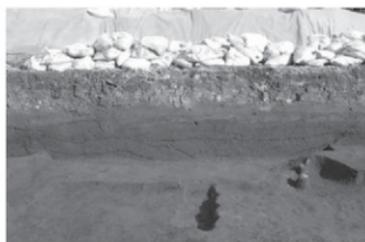
A区H-19カマド全景 (西から)



A区H-20全景 (西から)



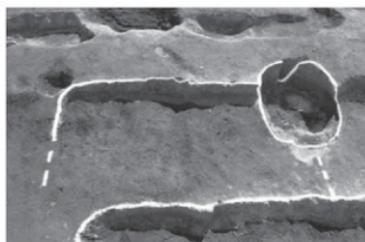
A区H-20カマド全景 (西から)



A区H-21全景 (西から)



A区H-22全景 (東から)



A区H-23全景 (北から)



A区H-23遺物出土状況 (北西から)





PL.7



AKH-25全景 (西から)



AKH-25カマド全景 (西から)



AKH-25・26・29・32全景 (南から)



AKH-26カマド全景 (西から)



AKH-27全景 (南西から)



AKH-27カマド全景 (南西から)



AKH-28カマド全景 (西から)



AKH-29カマド全景 (西から)





PL.8



A KH-31全景 (西から)



A KH-31カマド全景 (西から)



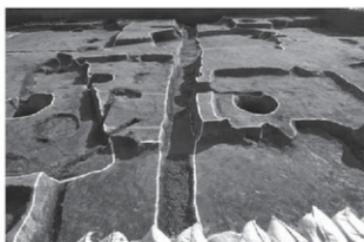
A KH-31遺物出土状況 (北西から)



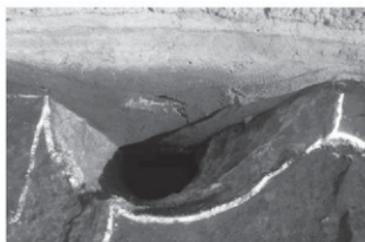
A KH-32カマド全景 (北から)



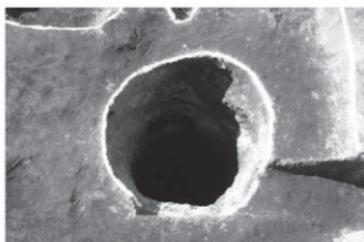
A KH-33カマド全景 (南から)



A KW-1全景 (西から)



A KI-1全景 (西から)

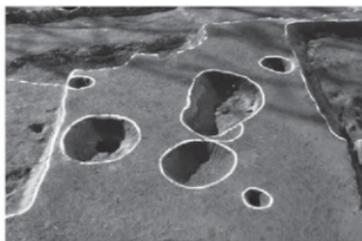


A KI-2全景 (南から)

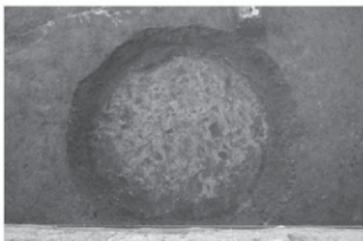




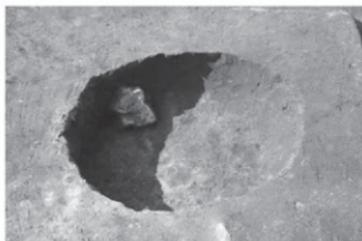
A区I-3全景 (東から)



A区D-2・3・10、P-2・3・10全景 (東から)



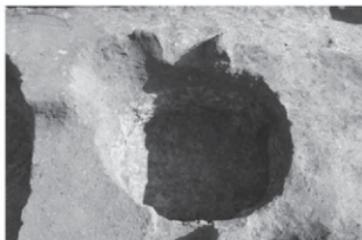
A区D-17全景 (南から)



A区D-18全景 (南から)



A区D-20全景 (西から)



A区D-23全景 (西から)



A区D-25全景 (西から)



A区D-37全景 (西から)





PL.10



B区全景 (南から)



B区北半全景 (南西から)



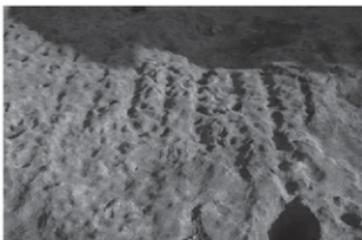
B区全景 (西から)



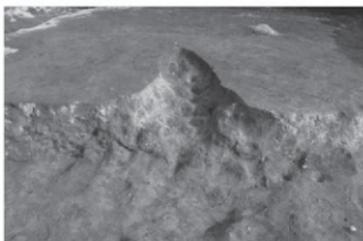
B区H-1全景 (西から)



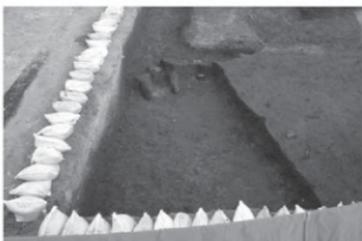
B区H-1カマド全景 (西から)



B区H-1掘り方掘削痕検出状況 (南西から)



B区H-1カマド掘り方全景 (西から)



B区H-2全景 (西から)





B区H-2 カマド全景 (西から)



B区H-2 遺物出土状況 (北西から)



B区H-3 全景 (西から)



B区H-4 全景 (西から)



B区H-5・6 全景 (西から)



B区H-5 カマド全景 (西から)



B区H-5 遺物出土状況 (北から)



B区W-1 確認状況 (西から)

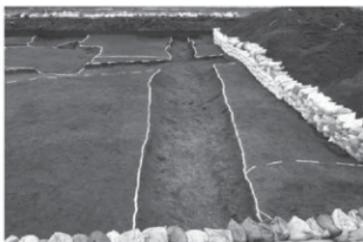




PL.12



B区W-1断面 (西から)



B区W-2全景 (西から)



B区W-4全景 (東から)



C区全景 (東から)



C区全景 (北から)



C区南壁断面 (北東から)



C区西壁断面 (東から)

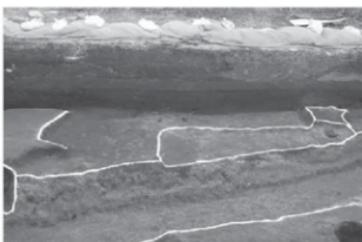


C区H-1全景 (西から)





C区H-1 遺物出土状況 (北から)



C区H-2 全景 (北から)



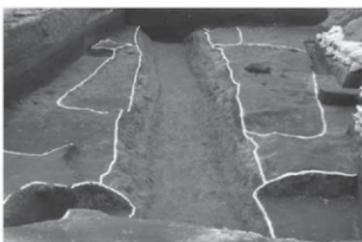
C区H-3 全景 (北から)



C区H-4 全景 (西から)



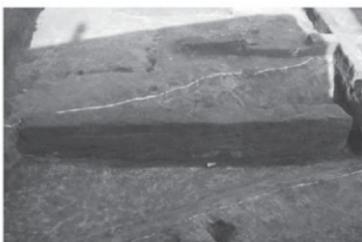
C区H-4 カマド 全景 (西から)



C区W-1 全景 (東から)



C区W-1 東壁断面 (西から)



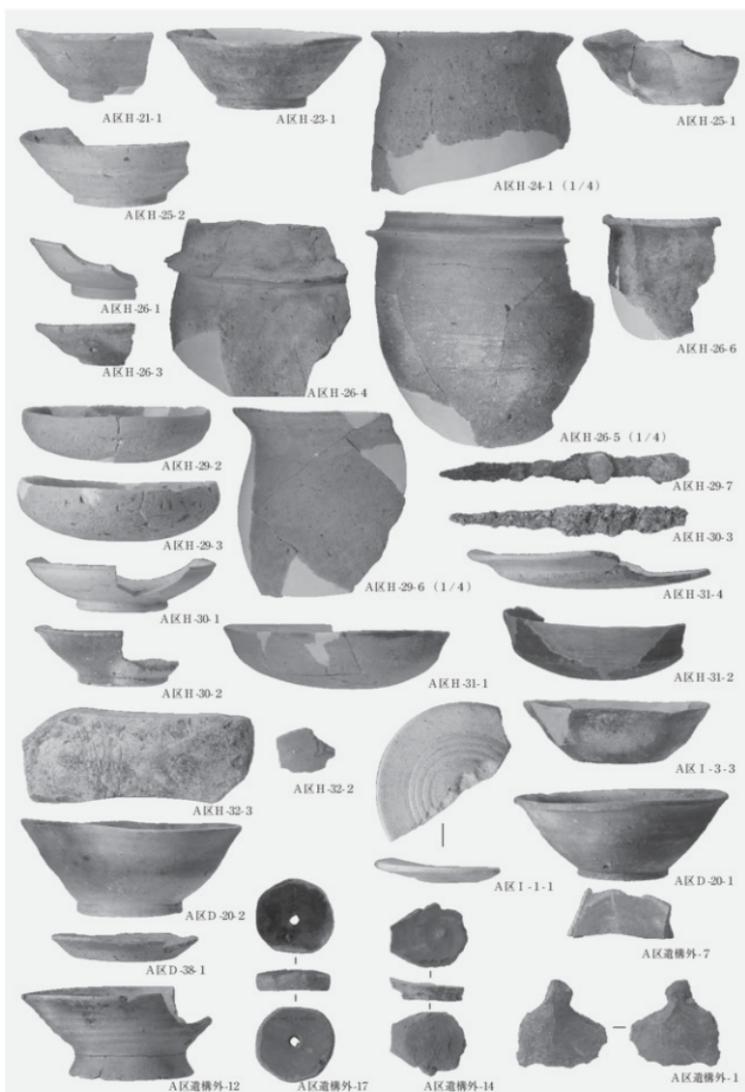
C区W-1 東西断面 (南から)





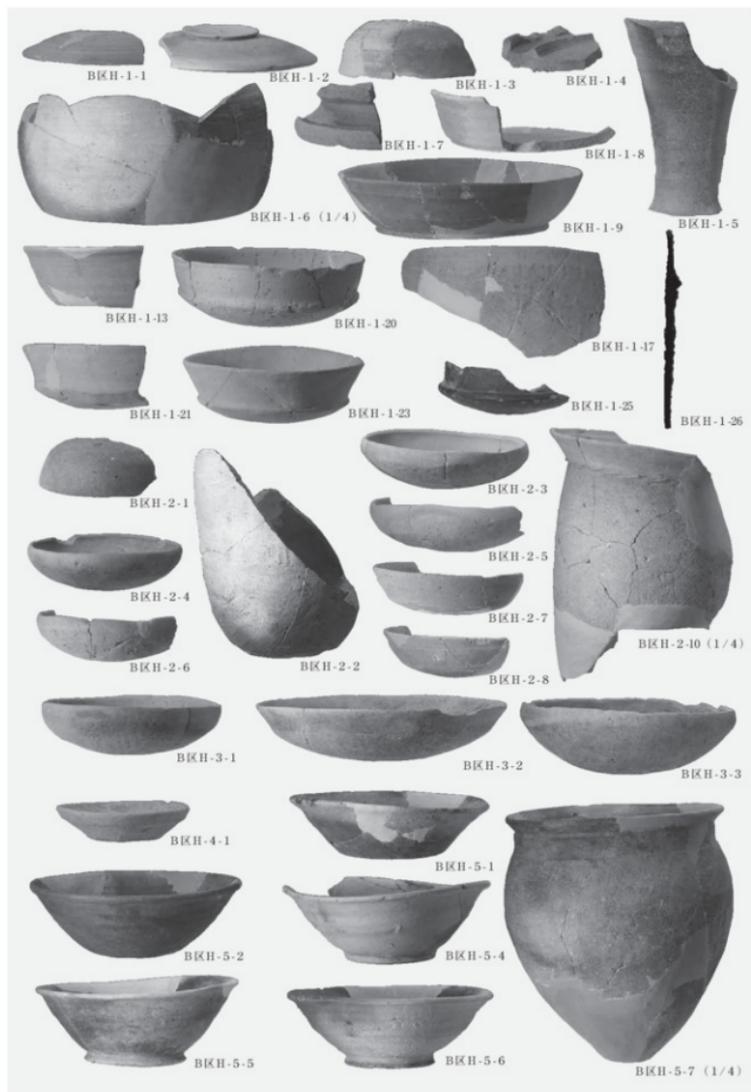
PL.14

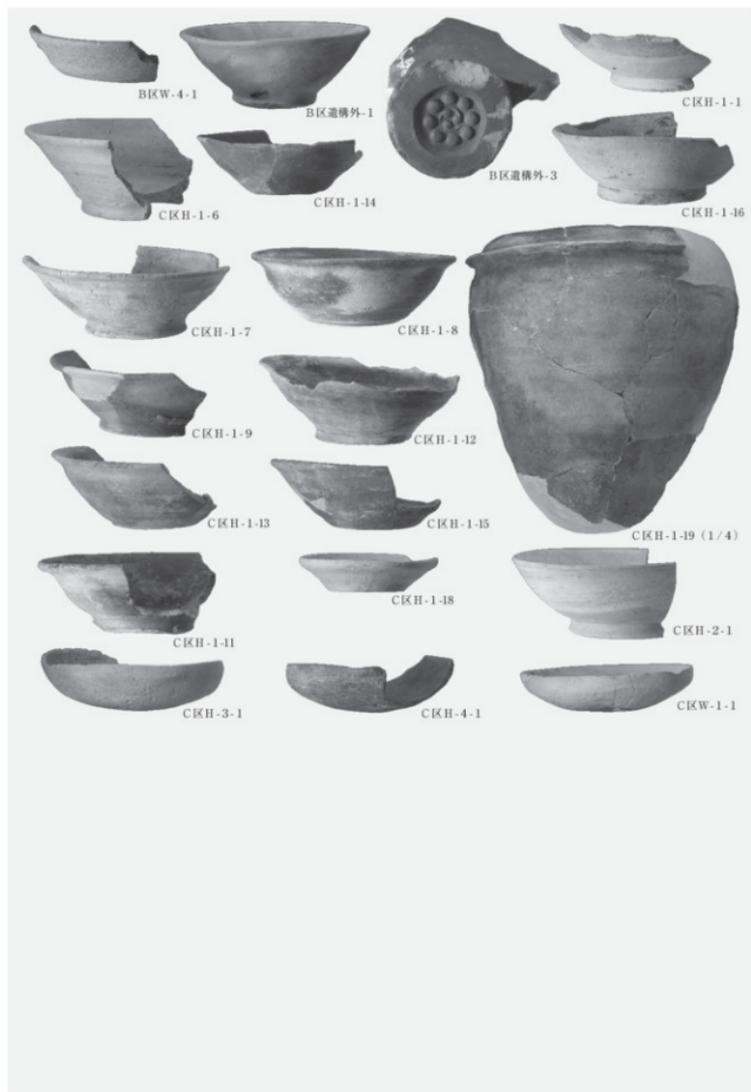






PL.16







報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウマイセキゲン (60)
書名	元総社蒼海遺跡群 (60)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	福田貫之・前田和昭・岡野 茂
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2-10-2
発行年月日	2014年3月26日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウマイセキゲン 元総社蒼海遺跡群 (60)	モトソウジャオウマイセキゲン 前橋市元総社町 1309-1ほか	103021	25A159	36°23'19"	139°1'44"	20131203 / 20140213	1,190㎡	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
元総社蒼海遺跡群 (60)	集落 城館跡 その他	平安時代 中・近世	住居跡 溝 堀跡 井戸 土坑 ピット	44基 5条 1条 3基 39基 18基	緑釉陶器 灰釉陶器 須恵器・土師器 かわらけ 鉄製品 石製品	7世紀末から11世紀半ばま での集落遺跡 蒼海城の堀跡		

元総社蒼海遺跡群 (60)

群馬県都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年3月20日 印刷

2014年3月26日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2-10-2

TEL 027-231-9531

編集

技研コンサル株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社









